







# アメリカザリガニ調査報告書 2012~2014

桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査拡大実行委員会



















#### 【表紙写真解説】

- 1 要注意外来生物 ミシシッピアカミミガメ
- 2 鳩川
- 3 外来生物 クサガメ
- 4 要注意外来生物 アメリカザリガニ
- 5 特定外来生物 ブルーギル
- 6 特定外来生物 ウシガエルの幼生(おたまじゃくし)
- 7 外来生物 カワリヌマエビ属
- 8 特定外来生物 オオクチバス
- 9 神奈川県立座間谷戸山公園 (鳩川水系)
- 10 特定外来生物 アライグマの足跡
- 11 国内外来生物 ドンコ
- 12 鳩川・縄文の谷戸 (鳩川水系)

目次	ページ
はじめに	1
調査地点・地図	2.3
調査内容	4
調査結果 バイオマス地図	5
調査結果一覧表	6.7
各地点調査記録票	8 ~46
まとめ	47~53
勉強会講演要旨	54.55
おわりに 謝辞	56



■アメリカザリガニ 2009年 相模川左岸 座間市・水田際の水路

#### はじめに

2008~2009年の田んぼの生きもの調査では、水草や水生生物を食害し、水辺の生態系に 悪影響のあるアメリカザリガニ(外来生物法の要注意外来生物)が、山梨県の4調査地域では確認 されませんでしたが、神奈川県5調査地域のうち4地域の水田・休耕田の池・水路に生息していまし た。そのうち2地域の会員が、生物多様性保全のためのアメリカザリガニ駆除に取り組んでいます。そ こで、2012年度から流域の水辺環境保全・再生のために、生態系に悪影響を与えるアメリカザリガニの生息密度の調査に取り組みました。

計画に先立って行った山梨県・神奈川県の会員アンケート・聞き取りによると、山梨県の桂川流域では、明日見湖周辺を除いてアメリカザリガニを周辺環境で見たという回答は無かったため、神奈川県内を対象に行いました。

#### 調査した河川・水系 水路

相模川、鳩川、目久尻川、小出川、中津川、善明川、山際川、荻野川、小鮎川、恩曽川、 玉川、日向川、相模川左岸・田村用水

#### 参加団体

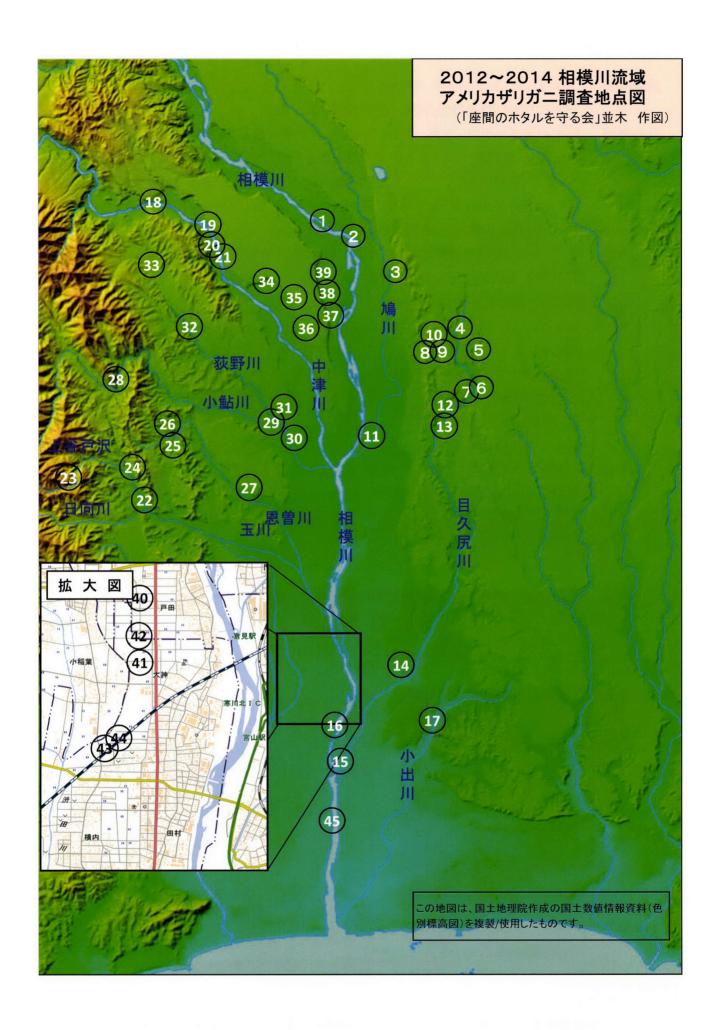
桂川・相模川流域協議会相模川湘南地域協議会、NPO法人神奈川ウォーター・ネットワーク 鳩川・縄文谷戸の会、座間のホタルを守る会、目久尻川をきれいにする会、 あいかわ自然ネットワーク

#### アドバイザー

勝呂尚之さん(NPO法人神奈川ウォーター・ネットワーク)

### 2012~2014相模川流域アメリカザリガニ調査採取地点

番号	河川•水系名	調査場所	番号	河川・水系名	調査場所
与 1	相模川左岸	相模原市 新昭和橋ワンド		玉川、支流·上谷戸沢	
2	相模川左岸	相模原市磯部 下溝のワンド	25	恩曽川	厚木市上古沢、野竹沢橋
3	鳩川	相模原市・鳩川縄文の谷戸	26	恩曽川、支流·市道川	厚木市上古沢、市道
4	目久尻川	座間市 栗原遊水地	27	恩曽川	厚木市温水、高浅橋
5	目久尻川	座間市 芹沢公園	28	小鮎川	愛甲郡清川村柳梅 柳梅橋
6	目久尻川	座間市 いっぺい窪	29	小鮎川、支流·金井川	厚木市林 平成橋上流右岸
7	目久尻川	座間市 巡礼橋下流	30	小鮎川	厚木市林、林妻橋
8	鳩川	県立座間谷戸山公園 (湿性生態園)	31	荻野川	厚木市及川、三河尻橋
9	鳩川	県立座間谷戸山公園 (水鳥の池)	32	荻野川	厚木市荻野 弁天橋·真弓川合流点
10	鳩川	県立座間谷戸山公園 (湧き水の谷)	33	荻野川、支流·田尻川	厚木市上荻野 荻野川合流点
11	鳩川	海老名市 馬船橋付近	34	善明川	厚木市棚沢、蟹沢橋上流
12	目久尻川 支流	海老名市上今泉 亀島公園湧水池	35	善明川	厚木市下川入 下川入善明川の水辺
13	目久尻川 支流	海老名市国分北 杉本小正門前の水田の水路	36	善明川	厚木市下川入 長坂山の根水辺の広場
14	目久尻川	寒川町 広域リサイクルセンター親水公園	37	山際川	厚木市山際、小平橋
15	目久尻川	寒川町一之宮	38	山際川	厚木市山際、馬坂下橋
16	相模川左岸	平塚市神川橋下流ワンド	39	山際川	厚木市山際、神明ノ木橋
17	小出川	茅ヶ崎市 行谷地区	40	相模川右岸 田村用水	厚木市戸田 小水路·休耕 田
18	中津川右岸	愛川町角田大橋下流ワンド	41	相模川右岸 田村用水	平塚市吉際 支線用水路
19	中津川左岸	愛川町箕輪耕地下流ワンド	42	相模川右岸 田村用水	平塚市吉際 幹線用水路 落水後
20	中津川右岸	愛川町尾山耕地休耕田·池	43	相模川右岸 田村用水	平塚市田村 小水路
21	中津川左岸	愛川町八菅橋下流釣堀周辺	44	相模川右岸 田村用水	平塚市田村 幹線用水路
22	日向川	厚木市七沢、大畑橋	45	相模川右岸本流ワンド	馬入水辺の楽校
23	玉川、支流・多々良沢	厚木市七沢、 県自然環境保全センター内			



### 調查内容

調査期間 2012・2013・2014年 8~9月

アメリカザリガニは夜行性のため、昼間設置、翌日回収

調査場所 相模川流域の河川、水路、水田、池など \*設置位置は岸に近い移動経路上がよい

調査方法 アナゴカゴ:大2個 (2013・2014年度小カゴ1個追加) による採集

餌: 煮干(茶袋に入れる) \*アナゴカゴが水中に沈む場合は、混獲の生物がおぼれ死ぬのを避けるためペットボトルを入れて浮かせる。アナゴカゴに、アメリカザリガニ調査中の掲示シートを付け、相模川漁連の同意書も掲示する。

ソートを付け、相関川温建の同息書も掲示する。

記録内容 気温、水温、支湧別の個体数(2014年は質量も計測)、個体数合計、質量合計、

頭胸甲長、カゴの中に混獲した生きもの・周辺に観られた生きもの、

写真記録:周辺環境・カゴ設置状況

■回収したアナゴカゴ 後左の大カゴに、アメリカ ザリガニがたくさん入ってい る。手前は小カゴ。



■メスとオスは腹部で見分ける 上:メス 腹部にある腹肢はオスよりも長く、卵を抱きかかえやすい







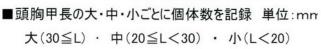




下:オス 腹部にある 第2腹肢は交尾器に なっている



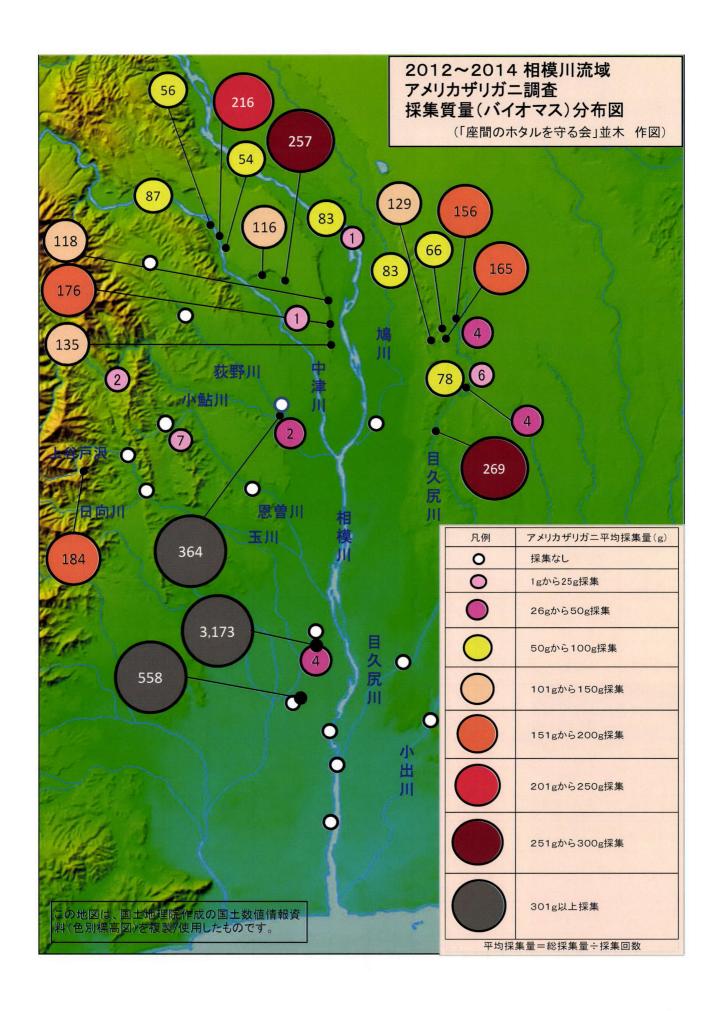
■頭胸甲長計測 目の後ろから、頭胸部の 甲羅の端までの長さをノギスで測る。





■質量計測

( 採集個体数が多い場合は、アトランダムに30個体を計測、2014年雌雄別に記録 )



### 2012~2014桂川・相模川流域協議会 田んぼの生きもの・アメリカザリガニ調査結果一覧表

凡例:/は調査を実施せず

番			個体数 2012~2014						総質量	t(g) 20	12~2014		19 Wt   + 11 4L	
号	河川·水系名	調査場所	12	13	14	合計	平均 (合計個 体数/回 数)	12	13	14	合計	平均 (総質量 合計/回 数)	混獲した生物 2012~2014合計	
1	相模川左岸 本流ワンド	相模原市 新昭和橋ワンド		6		6	6		83		83	83	クサガメ: 1	
2	相模川左岸 本流ワンド	相模原市磯部 下溝のワンド	0		1	1	0.5	0		3	3	1.5	ドジョウ: 1	
3	鳩川	相模原市 鳩川縄文の谷戸	8	12	11	31	10.3	90	116	45	251	83.7		
4	目久尻川	座間市 栗原遊水地	8	16	3	27	9	96	341	32	469	156.3	ヌマエビ科:15、スジエビ:2、 オイカワ:1、モツゴ:1	
5	目久尻川	座間市 芹沢公園	3	4	12	19	6.3	14	22	92	128	42.7	カワニナ:4	
6	目久尻川	座間市 いっぺい窪	0	0	1	1	0.3	0	0	20	20	6.7	アブラハヤ:24、ホトケドジョウ:2、 テナガエビ属:1、サワガニ1	
7	目久尻川	座間市 巡礼橋下流	5	5	0	10	3.3	86	40	0	126	42	スジエビ: 20+、アブラハヤ: 6、 モ <b>クズガニ: 2、</b> ホトケドジョウ: 1	
8	鳩川	県立座間 谷戸山公園 (湿性生態園)	15	11	25	51	17	131	72	185	388	129.3	スジエビ:5、 ウシガエル(成)2・(幼)21、 クサガメ:1	
9	鳩川	県立座間 谷戸山公園 (水鳥の池)	28	6	2	36	12	429	45	22	496	165.3	スジエビ:12、ウシガエル(成)1、 (幼)2、クサガメ:3、 ミシシッピアカミミガメ:2、 ヨシノボリ属:1	
10	鳩川	県立座間 谷戸山公園 (湧き水の谷)	17	6	12	35	11.7	99	12	89	200	66.7	カワニナ:39、スジエビ:14、 ウシガエル(成)3、ミナミメダカ:1	
11	鳩川	海老名市 馬船橋付近			0	0	0			0	0	0	<b>モクズガニ:5</b> 、クサガメ:3 <b>ミシシッピアカミミガメ:1</b> ドンコ:1	
12	目久尻川 支流	海老名市 上今泉 亀島公園湧水池	5	12	5	22	7.3	63	125	46	234	78	アブラハヤ:40、ヌマエピ科:3、 <b>モクズガニ:1</b>	
13	目久尻川 支流	海老名市国分北 杉本小正門前の 水田の水路	22	34	43	99	33	171	340	296	807	269	カワニナ、ヌマエビ科	
14	目久尻川	寒川町 広域リサイクルセンター 親水公園	0			0	0	0			0	0	ナマズ:3、モクズガニ:2 ミシシッピアカミミガメ:2 ボラ、コイ	
15	目久尻川	寒川町一之宮	0			0	0	0			0	0	調査者の判断により、 非公開	
16	相模川左岸 本流ワンド	平塚市神川橋 下流ワンド	0			0	0	0			0	0	調査者の判断により、非公開	
17	小出川	茅ヶ崎市 行谷地区	0			0	0	0			0	0	クサガメ: 4	
18	中津川右岸	愛川町角田大橋下流ワンド		0	10	10	5		0	175	175	87.5	ウキゴリ: 1、サワガニ: 1	
19	中津川左岸	愛川町箕輪耕地 下流ワンド	4			4	4	56			56	56	トウキョウダルマガエル: 1、 クサガメ: 1	
20	中津川右岸	愛川町尾山耕地 休耕田・池	2	10	28	40	13.3	17	251	378	646	215.3	モツゴ:1、ドジョウ:1	
21	中津川左岸	愛川町八菅橋下流 釣堀周辺	8	2		10	5	77	31		108	54	カワリヌマエビ属 : 2 トウヨシノボリ、オイカワ、ウグイ	
22	日向川	厚木市七沢、 大畑橋		0		0	0		0		0	0	アブラハヤ:5、 モクズガニ:2	
23	玉川、支流・ 多々良沢	厚木市七沢、 県自然環境保全 センター内	15	8		23	11.5	281	88		369	184.5	アブラハヤ:6、 <b>モクズガニ:2、</b> カワニナ、ドジョウ	
24	玉川、支流・ 上谷戸沢	厚木市七沢、 坂下橋		0		0	0		0		0	0	アブラハヤ:16、 <b>モクズガニ:1、</b> ツチガエル、コヤマトンボ(幼)	
25	恩曽川	厚木市上古沢、 野竹沢橋		1		1	1		7		7	7	ブルーギル:10、 アブラハヤ:2	

番				個体	数 20	012~20	14		総質量	<b>t</b> (g) 20	12~2014		
号	河川-水系名	調査場所	12	13	14	슴計	平均 (合計個 体数/回 数)	12	13	14	合計	平均 (総質量 合計/回 数)	混獲した生物 2012~2014合計
26	恩曽川、 支流·市道川	厚木市上古沢、 市道		0		0	0		0		0	0	アブラハヤ: 14
27	恩曽川	厚木市温水、 高浅橋		0		0	0		0		0	0	<b>モクズガニ: 7</b> 、アブラハヤ: 3、 タモロコ: 2、 ミ <b>シシッピアカミミガメ: 1</b>
28	小鮎川	愛甲郡清川村 柳梅、柳梅橋		1		1	1		25		25	25	<b>モクズガニ:3、</b> アブラハヤ:3、 サワガニ:1、コヤマトンボ(幼):1
29	小鮎川、 支流•金井川	厚木市林、平成橋 上流右岸		25		25	25		346		346	346	カワリヌマエビ属:21、ヌカエビ:1、 アブラハヤ:1、 <b>モクズガニ:</b> 1
30	小鮎川	厚木市林、 林妻橋		2		2	2		28		28	28	アブラハヤ:11
31	荻野川	厚木市及川、 三河尻橋		0		0	0		0		0	0	カワリヌマエビ属: 18、スジエビ: 3、 アブラハヤ: 1、オイカワ: 1、 <b>モクズガニ: 1</b> 、ウグイ: 1
32	荻野川	厚木市荻野、 弁天橋·真弓川 合流点		0		0	0		0		0	0	アブラハヤ:4、カワムツ:3、 <b>モクズガニ:2</b>
33	荻野川、 支流·田尻川	厚木市上荻野、 荻野川合流点		0		0	0		0		0	0	アブラハヤ:90、オオクチバス:5、 カラドジョウ:2、ドジョウ:1
34	善明川	厚木市棚沢、蟹沢 橋上流		11		11	11		116		116	116	ギンブナ:2 <b>、ナマズ:1</b>
35	善明川	厚木市下川入、 下川入善明川の 水辺	23	20		43	21.5	237	277		514	257	
36	善明川	厚木市下川入、 長坂山の 根水辺の広場		1		1	1		12		12	12	カワムツ: 10 、 モ <b>クズガニ: 4</b>
37	山際川	厚木市山際、 小平橋		12		12	12		135		135	135	ギンブナ:1、 トウキョウダルマガエル:1
38	山際川	厚木市山際、 馬坂下橋		14		14	14		176		176	176	ドジョウ:2
39	山際川	厚木市山際、 神明ノ木橋		6		6	6		118		118	118	モツゴ:5
40	相模川右岸 田村用水	厚木市戸田 小水路·休耕田	0			0	0	0			0	0	
41	相模川右岸 田村用水	平塚市吉際 支線用水路	2			2	2	48			48	48	
42	相模川右岸 田村用水	平塚市吉際 幹線用水路 落水後	151	235	18	404	134.7	3,700	5,423	396	9,519	3,173	ドジョウ:3、フナ属:1、 ナマズ:1
43	相模川右岸 田村用水	平塚市田村 小水路	42			42	42	558			558	558	<b>ナマズ:1、</b> フナ属:1
44	相模川右岸 田村用水	平塚市田村 幹線用水路	0			0	0	0			0	0	
45	相模川右岸 本流ワンド	馬入水辺の楽校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ナマズ、,コイ、 <b>ニホンウナギ、</b> ミ <b>シシッピアカミミガメ</b>
	合	·計	358	460	171	989	428.7	6,153	8,229	1,779	16,161	6720.5	

#### \* そのほかのデータ

相模川右岸田村用水 吉際幹線用水路の9月11日・11月2日 (一覧表の吉際幹線用水路は2012年10月5日調査実施)

平塚市吉際	2012年9月11日	1		1	1	27		27	27	フナ属:4、 <b>ナマズ:1</b>
幹線用水路	2012年11月2日	26		26	26	546		546	546	
相模川右岸	2013年3月5日		864	864	864		7,358	7,358	7,358	
平塚市四之宮下水道公社	2013年5月31日		1,423	1,423	1,423		13,500	13,500	13,500	
四之宮せせらぎ	2013年9月9日		2,036	2,036	2,036		17,050	17,050	17,050	
の森(下池)	2013年12月11日		258	258	258		1,800	1,800	1,800	

■一覧表と同じ調査地点番号順に調査記録票を掲載します。 ただし、地点No.15・16・17・40・41・44の調査 記録票は掲載していません。

調査地点	No. 1 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録							
調査団体名	鳩川・縄文谷戸の会 アメリカザリガニ調査実行委員会							
参加者氏名	<b>倉橋満知子 斉藤昭一 大木悦子</b>							
河川名 (調査地名称)	相模川左岸							
調査場所	神奈川県 相模原市南区当麻 新昭和橋 ワンド							
調査場所の 緯度・経度	N 35° 31′ 28. 5″ E 139° 21′ 38″							

是被未完整的			計	測結果		凡例 /	′:調査せず	—:計測	せず	
採集日	201	2年(実施せ	:ず)	2013	3年(8月3	1日)	2014年(実施せず)			
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)						3				
<b>中</b> (20≦L<30)				_		3				
小 (L<20)				_		0				
合計数				2	4	6				
総質量(g)						83				

写真:調査地の周辺環境

写真:アナゴカゴ設置状況





混獲した生きもの

大カゴ: クサガメ1

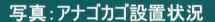
そのほかに観察した生きもの

### 調査の感想/特記事項

床止め工があるワンドで、堤防側は中段に散歩の人達 が利用するコンクリート歩道が続く。ワンドをはさんだ向か いにオニグルミやヤナギなどの樹木が茂る。大カゴ1個の 餌が外から引き出されたのか、袋ごと無くなり、カゴの外に 大きな個体の姿を複数確認。散歩人の話では、すぐ下 流で石の下に潜む20尾程を捕った親子がいたとのこと。

調査地点	№. 2 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録						
調査団体名	アメリカザリガニ調査実行委員会						
参加者氏名	大木悦子						
河川名 調査地名称) 相模川左岸本流ワンド							
調査場所	神奈川県相模原市南区 ①磯部(三段の滝下)ワンド ②下溝のワンド						
調査場所の 緯度・経度	① N 35° 30′ 56. 8″ E 139° 22′ 46″ ② N 35° 31′ 42″ E 139° 22′ 39. 6″						

	計 測 結 果 凡例 /:調査せず											
採集日	① 2	012(9月2	6日)	201	3年(実施せ	!す")	② 2014(9月20日)					
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数			
<b>大</b> (30≦L)	0	0	0				0	0	0			
<b>中</b> (20≦L<30)	0	0	0				1	0	1			
<b>小</b> (L<20)	0	0	0				0	0	0			
合計数	0	0	0				1	0	1			
総質量(g)	0	0	0				3	0	3			









①三段の滝下流

②下溝のワンド

### 混獲した生きもの

2013年:無し

2014年: ②のワンド ドジョウ 1尾 15cm程度

### 調査の感想/特記事項

①は磯部・三段の滝下から磯部頭首工上流の本流に向かう、ゆるい流れがある。調査の少し前の時期に、河川敷の 土砂移動があったと聞いた。

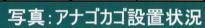
②は、①の200m程上流。八瀬川合流地点周辺の緩やかなワンド。川底は中ぐらいの石が多く、緩やかな流れのある場所では採集できなかった。奥まった流れのない奥行き4m、10㎡程度の小さなワンドでは、小カゴに中程度のアメリカザリガニとドジョウが入った。

そのほかに観察した生きもの

この程度の小さなワンドでも生息していることから、大きなワンドでの生息数は多いと考えられる。

調査地点	No. 3 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	鳩川・縄文谷戸の会 アメリカザリガニ調査実行委員会
参加者氏名	2012年倉橋満知子 竹永 、2013・2014年倉橋満知子 大木悦子
河川名 (調査地名称)	鳩川・縄文の谷戸
調査場所	神奈川県 相模原市南区 磯部
調査場所の 緯度・経度	N 35° 30"33. 8' E139° 23"12. 9'

	計測 結果 凡例 ―:計測せず									
採集日	20	12(8月5	日)	20	13(8月31	日)	2014(9月20日)			
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)	-		2		1	3	0	1	1	
<b>中</b> (20≦L<30)	_	_	5			5	1	2	3	
<b>小</b> (L<20)		-	1	_		4	6	1	7	
合計数	4	4	8	6	6	12	7	4	11	
総質量(g)			90			113	19	26	45	









混獲した生きもの

#### 調査の感想/特記事項

無し

2012年 昨年の採集量に比べ、今年は少なく、水質・特に透明度が良くなっている。駆除の成果がでたのか。 2013年 駆除の成果はあがっているようだが、まだ大きい個体も居る。理由はわからないが、大カゴに小さい個体が入り、小カゴに大きい個体がぎっしり入っていた。

### そのほかに観察した生きもの

2014年 今年も小カゴにびっしりと8尾、大・中・小混じって入っていた。大カゴに3尾中・小サイズが入っていた。小サイズの1個体が網目から逃げ、次いで逃げかけた個体を急いでバケツに入れた。大カゴの網目から逃げられるサイズは16cm程度のようだ。21,2mmの個体は出られなかった。小カゴに入った12,8mmの個体は出られなかった。

田んぼ際の土畦のくぼみに、頭胸甲長30mmの大きなメスがいた。田んぼの中にアライグマの足跡があり、カエルがほとんどいないので、アメリカザリガニを食べにきていると思われる。

調査地点	i No. 4 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	座間のホタルを守る会
参加者氏名	並木保男
河川名 (調査地名称)	目久尻川水系(栗原遊水地)
調査場所	神奈川県 座間市
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 26, 0″ E139° 24′ 42. 5″

計 測 結 果 凡例 ―:計測せす

	11 1/1 1/1 1/1 1/1/1/2 2								
採集日	2012(8月19日)			2013(9月18日)			2014(9月19日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	4	0	4	-	-	13	1	0	1
<b>中</b> (20≦L<30)	1	1	2	1	1	3	2	0	2
<b>小</b> (L<20)	2	0	2	I	ı	0	0	0	0
合計数	7	11	8	11	5	16	3	0	3
総質量(g)	89	7	96	-	1	341	32	0	32

### 写真:調査地の周辺環境

### 写真:アナゴカゴ設置状況



**混獲した生きもの** 

ルランにエ

2012 オイカワ1 2013 なし

2014 スシ゛ェヒ゛2、ヌカエヒ゛15、モツゴ(クチホ゛ソ)1

調査の感想

目久尻川の洪水対策施設である遊水地だが、日量数 千立米の湧水が湧出する水路であるが、放流されたと思 われるザリガニが採集される。

### そのほかに観察した生きもの

調査地点	No. 5 桂川·相模川流域t	協議会 アメリカザリガニ調査記録					
調査団体名	座間のホタルを守る会						
参加者氏名	並木保男						
河川名 (調査地名称)	目久尻	川水系(芹沢公園)					
調査場所	神奈川県 座間市栗原地内						
調査場所の 緯度・経度	N35° 28′ 57. 0′	' E139° 25′ 11. 1″					

			計	測結果	凡	例 一:計	則せず		
採集日	2012(8月19日)			2013(9月18日)			2014(9月19日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	0	0	0	1	Ī	0	0	2	2
<b>中</b> (20≦L<30)	1	1	2	ı	ŀ	3	2	5	7
<b>小</b> (L<20)	1	0	1	-	-	1	1	2	3
合計数	2	1	3	1	3	4	3	9	12
総質量(g)	9	5	14	-	NO ENG	22	23	69	92



混獲した生きもの

2012 なし 2013 なし 2014 カワニナ4

写真:アナゴカゴ設置状況



調査の感想

目久尻川支流の源流に近い場所で、ゲンジボタルの放 流を行なっている地点である。源流域までザリガニが分布 していることが分かる。

### そのほかに観察した生きもの

調査地原	₹ №. 6 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録						
調査団体名	座間のホタルを守る会						
参加者氏名	並木保男						
河川名 (調査地名称)	目久尻川水系(いっぺい窪)						
調査場所	神奈川県 座間市 南栗原4丁目地内						
調査場所の 緯度・経度	N35° 28′ 21.9″ E139° 25′ 13.0″						

### 計測結果

採集日	2012(8月20日)			2013(9月19日)			2014(9月6日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	0	0	0	0	0	0	0	1	1
<b>中</b> (20≦L<30)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計数	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総質量(g)	0	0	0	0	0	0	0	20	20

### 写真:調査地の周辺環境

### 写真:アナゴカゴ設置状況



### 混獲した生きもの

調査の感想

2012 アブラハヤ9

2013 アブラハヤ3, サワガニ1

2014 アブラハヤ12、ホトケトンショウ2、テナカエヒブ

数年前までザリガニが見られたが、一昨年、昨年の2年間の調査でザリガニは採集されなかった。今年は外来者が放流したと思われる大型のサーリカニを5尾程度駆除していたが、今回採集されたサーリカニも同時期に放流されたものである可能性がある。

- Mills

### そのほかに観察した生きもの

ゲンジボタル

調査地点	No. 7 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録					
調査団体名	座間のホタルを守る会					
参加者氏名	並木保男					
河川名 (調査地名称)	目久尻川(巡礼橋下流)					
調査場所	神奈川県 座間市南栗原5丁目地内					
調査場所の 緯度・経度	N35° 28′ 20. 5″ E139° 25′ 10.0″					

	計 測 結 果 N例 ─:計測せす									
採集日	2012(8月20日)			2013(9月19日)			2014(9月6日)			
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)	1	2	3	1	-	1	0	0	0	
<b>中</b> (20≦L<30)	1	1	2	1	1	1	0	0	0	
小 (L<20)	0	0	0	1	1	3	0	0	0	
合計数	2	3	5	1	4	5	0	0	0	
総質量(g)	40	46	86	-	-	40	0	0	0	

写真:調査地の周辺環境



混獲した生きもの

2012 アブラハヤ1 2013 モクス゛カ゛ニ(甲幅68mm)1、ホトケト゛シ゛ョウ1, スシ゛ェヒ゛20+

2014 モクス゛カ゛ニ(甲幅70mm)、アフ゛ラハヤ5

### 調査の感想

公共下水道の整備が進むに連れ、透視度が1m以上に 回復し、夏場の水温も低い。

写真:アナゴカゴ設置状況

このため座間市内の目久尻川では湧水性の生物の復 活が著しい。2014年はザリガニが採集されなかったが、 9月16日に行なった調査時には、ザリガニを採集してい る。

# そのほかに観察した生きもの

アユ、カルガモ

調査地点	i No. 8 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録					
調査団体名	座間のホタルを守る会					
参加者氏名	並木保男					
河川名 (調査地名称)	鳩川水系(県立谷戸山公園湿性生態園)					
調査場所	神奈川県 座間市 入谷3丁目地内					
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 10. 8″ E139° 24′ 11. 7″					

	計 測 結 果 凡例 ―:計測せず										
採集日	2012(8月30日)			2013(9月20日)			2014(9月5日)				
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)	3	0	3	1	1	0	0	0	0		
<b>中</b> (20≦L<30)	6	6	12	ı	į	8	12	11	23		
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	ı	ļ	3	1	1	2		
合計数	9	6	15	5	6	11	13	12	25		
総質量(g)	83	48	131	-		72	92	93	185		



### 混獲した生きもの

2012 ウシガエル(成)1 2013 ウシガエル(成)1、ウシガエル(オタマ)1 2014 クサガメ(成)1、ウシカ゛ェル(オタマ)1、スシ゛ェヒ゛5

### 写真:アナゴカゴ設置状況



### 調査の感想

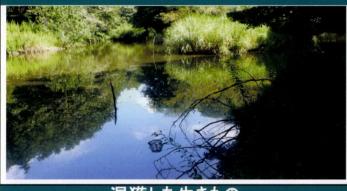
ウシガエル、ミシシッピアカミミガメが頻繁に見られ、公園内 で繁殖している。

### そのほかに観察した生きもの

調査地点	№. 9 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	座間のホタルを守る会
参加者氏名	並木保男
河川名 (調査地名称)	鳩川水系(県立谷戸山公園水鳥の池)
調査場所	神奈川県 座間市 入谷3丁目地内
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 12. 7″ E139° 24′ 15. 4″

	計 測 結 果 凡例 ―:計測せず										
採集日	2012(8月30日)			2013(9月20日)			2014(9月5日)				
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)	6	9	15	1		2	0	0	0		
<b>中</b> (20≦L<30)	9	4	13	1	-	4	2	0	2		
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	-	-	0	0	0	0		
合計数	15	13	28	5	1	6	2	0	2		
総質量(g)	227	202	429			45	22	0	22		

写真:調査地の周辺環境



混獲した生きもの

2012 ミシシッピアカミミカ、メ1、クサカ、メ3、ウシカ、エル(オタマ)1 2013 ウシガェル(成)1、同オタマ2、スジェビ12

2014 ミシシッピアカミミカ、メ1、ヨシノホ・リ1

### 写真:アナゴカゴ設置状況



調査の感想

公園全体に外来種が多いが、水鳥の池は、その中心に なっている。水草が減り、透明度が落ち、在来魚類の減 少が著しい。

### そのほかに観察した生きもの

スッホ°ン、クサガメ、イシガメ、アカミミガメ

調査地点	No. 10 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録						
調査団体名	座間のホタルを守る会						
参加者氏名	並木保男						
河川名 (調査地名称)	鳩川水系(県立谷戸山公園湧き水の谷)						
調査場所	神奈川県 座間市 入谷3丁目地内						
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 17. 4″ E139° 24′ 15. 6″						

#### 計測結果 凡例 一:計測せず

採集日	20	12(8月30日	∃)	20	13(9月21日	∃)	20	014(9月6日	1)
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	1	2	3	1	1	0	0	0	0
<b>中</b> (20≦L<30)	5	8	13	1	I	1	5	6	11
<b>小</b> (L<20)	0	1	1	I	ı	5	0	1	1
合計数	6	11	17	3	3	6	5	7	12
総質量(g)	46	53	99	_	-	12	33	56	89

### 写真:調査地の周辺環境

## 写真:アナゴカゴ設置状況



混獲した生きもの



2012 ウシガェル(成)1

2013 ウシガェル(成)2、カワニナ25

2014 スシェヒ 14、メタ カ1、カワニナ14

### 調査の感想

外来種のザリガニが多く、ウシガエルも見られる。また、 2013年からグッピーが2年連続して見られる、越年したか

泥の堆積が進んでおり、2014年に初めてタニシが確認 された。

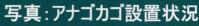
### そのほかに観察した生きもの

2013 グッピー、ヒメダカ 2014 グッピー、ヒメダカ、タニシ

調査地点	No.: 11 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	アメリカザリガニ調査拡大実行委員会
参加者氏名	大木悦子·村田 弘
河川名 (調査地名称)	鳩川(馬船橋付近)
調査場所	神奈川県 海老名市 上郷3丁目9番地
調査場所の 緯度・経度	N35° 27' 29.9″ E139° 22' 59.2″

計	訓	結	里	口 個	/:調査せず
	/3(1	me.	_	ノレツリ	

採集日	20	12(実施せ	<del>g"</del> )	20	13(実施せ	<del>ਰ</del> ")	201	14(8月18	日)
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)							0	0	0
<b>中</b> (20≦L<30)							0	0	0
<b>小</b> (L<20)							0	0	0
合計数							0	0	0
総質量(g)							0	0	0





#### 混獲した生きもの

ミシシッピアカミミガメ: 1 (甲長220mm) クサガメ:3(甲長185,160,155mm) モクズガニ:6(甲長71,64,61,54,48,39mm)

ドンコ:1(体長48mm)



#### そのほかに観察した生きもの

稚魚(種名不明)、アメンボ



#### 調査の感想

調査地点分布の空白を補うため、2014年度に追加実施した場所だが、アメリカザリガニはゼロであった。アカミミガメ、クサガメ、モクズガニが多く生息しているため、これらに捕食されて減少したものと思われる。調査地点から約200m下流の三川公園内で川に入っている親子に聞いたところ、「ザリガニは小さいものしかいない。夏休みのため、大きいものはとりつくされたのではないか」と話していた。今回使用したアナゴカゴは大2個。

調査地点	i №. 12 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	目久尻川をきれいにする会
参加者氏名	飯田英榮、竹内長次、井上芳子、飯田英喜、三宅紘輔、萩原博、村田弘
河川名 (調査地名称)	目久尻川支流(亀島公園湧水池)
調査場所	神奈川県 海老名市 上今泉6-34
調査場所の 緯度・経度	N35° 28′ 14.3″ E139° 24′ 45.0″

			計測	川 結 果		凡例 一	∵計測せず			
採集日	201	2年(8月19	日)	2013年(8月25日)				2014年(8月24日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)	ı	1	2	1	1	2	2	0	2	
<b>中</b> (20≦L<30)	ı	-	3	Ţ	-	10	2	1	3	
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計数	5	0	5	9	3	12	4	1	5	
総質量(g)	-		63	10 -	- 1	125	36	10	46	

写真:アナゴカゴ設置状況



### 混獲した生きもの

アブラハヤ(40),ヌマエビ科(3),モクズガニ(1) カッコ内は調査3

回の累計個体数



そのほかに観察した生きもの

アメンボ

湧水池で水温が低い(18°C)ため、夏休みの間は子供の ザリガニ捕りをよく見かける。それが採集数が少ない一因 になっているのかもしれない。一方、アブラハヤは毎回10 尾以上採集されており、エサの煮干しを目指して入ったか どうかは分からないが、生息しやすい環境になっていると 言えるだろう。なお、使用したアナゴカゴは調査年順に大 2/大2+小1/大2。

No. 13 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
目久尻川をきれいにする会
飯田英榮、竹内長次、井上芳子、飯田英喜、三宅紘輔、萩原博、村田弘
目久尻川支流(杉本小学校正門前の水田の水路)
神奈川県 海老名市 国分北4-9
N35° 27′ 49.9″ E139° 24′ 27.7″

有证法			計	測結果	Į	凡例	—:計測t	<del>ヹ</del> ず゚	
採集日	201	2年(8月19	(日)	2013年(8月25日)			2014年(8月24日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	1	-	4	1	1	10	6	1	7
<b>中</b> (20≦L<30)	1	-	11	ī	-	20	18	6	24
<b>小</b> (L<20)	ı	1	7	1	1	4	25	18	43
合計数	10	12	22	14	20	34	25	18	43
総質量(g)			71	-	-	340	230	66	296

写真:調査地の周辺環境



混獲した生きもの

カワニナ、ヌマエビ科

### そのほかに観察した生きもの

稚魚(種名不明)、アメンボ

### 写真:アナゴカゴ設置状況



亀島公園の湧水池から灌漑用に約1km引水した水路。上からのぞいてもいつも見つけられる程、アメリカザリガニは多い。使用したアナゴカゴは調査年順に、大2/大2+小1/大2+小2。従って正確な推移は分からないが、年一回の調査採集では生息数を減らすことはできないと思われる。ここは蛍の幼虫を放流する場所でもあり、今後は駆除を目的とした採集も行ってゆきたい。2014年の結果で、大カゴに入ったザリガニは頭胸甲長19~35mm、小カゴは7~34mmなので、大カゴでは18mm以下の個体は抜け出たと思われ、駆除には小カゴも必要不可欠であろう。

調査地点 No.	14 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	桂川·相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会
参加者氏名	中門 吉松
河川名 (調査地名称)	目久尻川
調査場所	神奈川県高座郡寒川町 広域リサイクルセンター横親水護岸
調査場所の 緯度・経度	N 35° 23′ 23″ E 139° 23′ 42″

		F	† 測 新	果	凡	.例 /:	調査せず		
採集日	2012年(9月2日)			2013年(実施せず)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	0	0	0						
<b>中</b> (20≦L<	0	0	0						
<b>小</b> (L<20)	0	0	0						
合計数	0	0	0						
総質量(g)	0	0	0						

写真:調査地の周辺環境





- 1)ナマズ(大)2匹、(小)1匹
- 2)ボラ1匹(捕獲のカメに食べられた?)
- 3)コイ(小)1匹
- 4)モクズカニ 2匹
- 5) アメリカミシシッピアカミミカメ 2匹

#### そのほかに観察した生きもの

- 1)アメンボが多数
- 2)アナゴカゴの周りに鯉が泳ぐのが見える

### 写真:アナゴカゴ設置状況



#### 調査の感想/特記事項

- ①今回の調査ではザリガニの採集はできなかったが、ナマズ(30cm程度)の成魚が2匹カゴに入っていた。 (アメリカザリガニが入っても食べられた可能性もあるが殻は確認できなかった)
- ②成長したカメ、カニがカゴ2個共に入っていた。
- ③同じ場所で8/4(土)実施した寒川町主催・川 の調査隊では、網などで25尾の採集をしていること から生息していることは確認できている。
- ③川の調査隊当日に指導頂いた勝呂さんからザリガニ調査の測定を提案されたが、機材を準備していなかったので未実施を後悔している。
- ③目久尻川に多くの生物が生息していることが再 認識できて良かった。

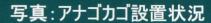
### ■一覧表と同じ調査地点番号順に調査記録票を掲載します。

ただし、地点No.15・16・17・40・41・44の調査記録票は掲載していません。

調査地点	No. 18 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	あいかわ自然ネットワーク
参加者氏名	諏訪部 晶 大木悦子
河川名 (調査地名称)	中津川右岸
調査場所	神奈川県愛川町・角田大橋下流①仙台頭首工上流②丸山耕地取水門下のワンド
調査場所の 緯度・経度	① N35° 31′ 36. 8″ E139° 18′ 22. 8″ ② N35° 31′ 36. 9″ E139° 18′ 16. 5″

計 測 結 未 凡例 /:調査で9									
採集日	201	2年(実施も	<u>!</u> ず)	① 2013(8月28日)			② 2014(9月23日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				0	0	0	6	2	8
<b>中</b> (20≦L<30)				0	0	0	1	1	2
<b>小</b> (L<20)				0	0	0	0	0	0
合計数				0	0	0	7	3	10
総質量(g)				0	0	0	141	34	175

写真:調査地の周辺環境







### 混獲した生きもの

①2013年 小カゴ:ウキゴリ 3cm ②2014年 大カゴ:サワガニ 1,7cm



# 調査の感想/特記事項

2013年:丸山耕地用水路水門手前から、一部河川 敷側に落水し、本流に合流する手前のワンド。仙台頭 首工のすぐ上流、岸辺にツルヨシが茂り、緩やかに流れて いる。

### そのほかに観察した生きもの

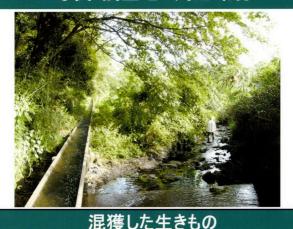
2014年 マユタテアカネ、イトトンボの仲間、稚魚1~2c

2014年:同じく丸山耕地用水路水門手前から河川敷 に落水した流れのないワンド。2013年の調査地よりも 上流。両岸はノイバラやクサヨシ、ツルヨシ、ミゾソバなどの 植物が茂る。底は、石と砂礫、泥。流れがほとんど無く、 水深25cm、幅4m、長さ15m程度。稚魚が群れる狭 いワンドに、思いがけず大きなアメリカザリガニがたくさん居 て驚いた。水際近くに駐車スペースがあり、子供づれの家 族が虫カゴを持って訪れていた。

調査地点	₹ No. 19 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	あいかわ自然ネットワーク
参加者氏名	諏訪部 晶 ·小泉計雄·大木悦子
河川名 (調査地名称)	中津川左岸 箕輪耕地下流 河川敷のワンド
調査場所	神奈川県 愛川町中津 箕輪耕地下流 河川敷のワンド
調査場所の 緯度・経度	N 35° 31′ 17. 7″ E 139° 19′ 27. 9″

	計測 結果 凡例 ╱:調査せず ─:計測せず 											
採集日	201	2年(9月12	(目)	2013年(実施せず)			2014年(実施せず)					
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数			
<b>大</b> (30≦L)	2	1	3									
<b>中</b> (20≦L<30)	0	1	1									
<b>小</b> (L<20)	0	0	0									
合計数	2	2	4				/					
総質量(g)			56									

写真:調査地の周辺環境



トウキョウダルマガエル・クサガメ 各1個体

### 写真:アナゴカゴ設置状況



調査の感想/特記事項

仙台頭首工から取水し、箕輪耕地を経由し、下谷耕地に向かう中津川左岸用水が高架水路となって、河川敷の河 岸段丘下際を通っている。

箕輪耕地の最下流は用水と排水が合流し、下流水田への 用水路に入りきれない水は、本流までワンドを形成しながら 河川敷を流れている。

\_\_\_\_ このワンドでの繁殖が考えられる生物(2012年5月27日 の調査)

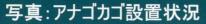
- ①卵を持つオオヨシノボリとアブラハヤを確認。産卵場所の可能性がある。
- ②アオハダトンボのメス成虫の生息が見られ、ツルヨシが茂っているため、アオハダトンボの繁殖環境と考えられる。
- ③トウキョウダルマガエル、ツチガエルの個体数が多く、繁殖していると考えられる。

#### そのほかに観察した生きもの

オニヤンマ・オオシオカラトンボ・ミヤマアカネ・ハグロトンボ・ツチ ガエル

調査地点	No. 20 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	あいかわ自然ネットワーク
参加者氏名	諏訪部 晶 ·小泉計雄·大木悦子
河川名 (調査地名称)	中津川水系
調査場所	神奈川県 愛川町 八菅山 尾山耕地:休耕田の池
調査場所の 緯度・経度	N 35° 30′ 58. 0″ E 139° 19′ 31. 4″

			計	測結:	果	凡例	―:計測せ	<b>ਰ</b> "	
採集日	2012(9月12日)			2013(8月23日)			2014(9月20日)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	1	0	1	1	1	9	10	3	13
<b>中</b> (20≦L<30)	1	0	1			0	5	10	15
<b>小</b> (L<20)	0	0	0			1	0	0	0
合計数	2	0	2	6	4	10	15	13	28
総質量(g)			17			251	253	125	378





### 混獲した生きもの

2012・2014年:なし 2013年: ドジョウ・モツゴ

### 調査の感想/特記事項

2012年度:約100㎡の前面に30個ほどのアナゴカゴ をかけての駆除活動を続けた成果で、大きな個体はだん だんと少なくなってきた。一時、ヤゴなどの水生生物が 戻ってきたが、今年は減少傾向が見られる。アメリカザリガ 二以外の原因もあると考えられる。

- 方で、トウキョウダルマガエルのオタマジャクシが生息して いて、繁殖していることがわかった。

池の周辺の水田や水路にはアライグマの足跡があり、アメ リカザリガニなどを捕食しているとみられる。

2013年:継続して駆除実施中。トウキョウダルマガエル の混獲が多い。

2014年:今年はヘビやカエルの混獲を避けるために、卵 を持つ前の初秋から駆除を行う。駆除に先立ち、調査を 行ったため採集数が多かった。

### そのほかに観察した生きもの

トウキョウダルマガエル・ウスバキトンボ

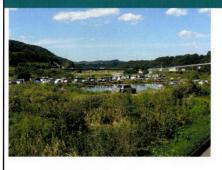
調査地	点 No. 21 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	あいかわ自然ネットワーク
参加者氏名	諏訪部 晶 ·小泉計雄·大木悦子
河川名 (調査地名称)	中津川左岸
調査場所	神奈川県 愛川町中津 八菅橋下流 河川敷 釣堀周辺
調査場所の 緯度・経度	① N35° 30′ 34. 6″ E139° 19′ 50. 6″ ② N35° 30′ 37. 2″ E139° 19′ 50. 6″

計	SBII	绘士	<b>=</b>	C /84	ノ. 調本	44-44	: 計測サず
a T	温川	术古	果	<b>小.19</b>	/:調査	TJq	—·計測サす

採集日	① 2	012(9月1	2日)	2 20	013(8月2	28日)	2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	0	1	1	0	1	1			
<b>中</b> (20≦L<30)	5	2	7	0	1	1			
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	0	0	0			
合計数	5	3	8	0	2	2	/		
総質量(g)			77g	0	31g	31g			

写真:調査地の周辺環境

### 写真:アナゴカゴ設置状況







①釣堀下

② 釣堀隣接細い流れ

#### 混獲した生きもの

①アユ 2尾(20cm以上・15cm)



②小カゴ:トウヨシノボリのオス・カワリヌマエビ属 大カゴ:オイカワ・ウグイ

そのほかに観察した生きもの

### 調査の感想/特記事項

①八菅橋下流の河川敷にある釣堀排水ロ下の小さな水溜り に、思いがけず大きなアメリカザリガニが入っていた。

また、釣堀で行き止まりの場所にもかかわらず、本流から遡上 したアユが入っているのに驚き、すぐに放した。

気温31℃、水温27.5℃ やや高めの水温は、釣堀で多少水が温まったためと思われる。

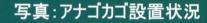
②中津川八菅橋下流河川敷にある釣堀のすぐ上流のワンド。 仙台頭首工からの中津川左岸用水が南下谷水田を経て若宮水田に向かう手前の水門下にワンドがある。調整された一部の水が、ワンドを経て本流に向かう細い流れとなる。後日、ワンドで魚を捕っている親子のバケツを覗くとカワムツがたくさん入っていた。

昔、水田脇の水路が土だった頃は、水路にアメリカザリガニがたくさんいたそうだが、今はコンクリート3面張りの深い水路になって流れも速く、姿は観られない。

	調査地点	No. 22	22 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録								
調査団	体名			神	奈川ウォータ	ユー・ネットワ	ーク				
参加者	氏名				住倉英孝	• 諏訪	部晶				
河川: (調査地:					日	句川					
調査場	所		厚木市七沢、大畑橋(だいばたけばし)								
調査場 緯度・絲			N35° 26′ 17.1″ E139° 18′ 01. 6″								
			計 測 結 果 凡例 /:調査せず ―:計測せず								
採集日	201	2年(実施	<b>せず</b> )	201	3年(7月30	(日)	201	4年(実施†	±ず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)				-	-	-					
<b>中</b> 20≦L<30)				-	-	-					
小 (L<20)				-	-	-					
合計数				0	0	0					
総質量(g)				0	0	0					
7	字真:調3	査地の周	辺環境		写真:アナゴカゴ設置状況						
	5 to 100	-		W.Z.C.	<b>第一次</b>		and the second				
					- 20	NEWS Y					
	No.	AND THE STATE OF T									
				M. W.		AULE	金礼				
					6	A CONTRACTOR					
		7	-	λ	1				1		
					1						
		した生き		ha co	調査の感想						
ブラハヤ、5戽 n、1尾 甲幅			クスカニ(甲)	幅50m	n 調査地は、堰堤の多い日向川の下流部。大畑橋下流 と言っても日向川橋に近い堰の上流部である。流路は、						
				一面をツルヨシが繁茂していた。アナゴカゴは堰の落ち込 みと取水口近くに設置した。だが、アメリカザリガニは採捕							
					できず、丸	々と太ったメ	スのアブラハ リカザリガニ	ヤとモクズナ	ごが採集		
					とは良いこと	だが、捕れ	ないことの原いる影響が	因の一つか	、7月の天		
7	のほかに	観察した	生きもの		年、2012年	F10月の調査	査では、河川	lが整備され	1草木が根		
ハグロトンボ・	シオカラトン	<b>゚</b> ボ		手もの 年、2012年10月の調査では、河川が整備され草木が根元から刈られていた。そのような場所では、アメリカザリガニやアブラハヤが数え切れないほど採集され、計測に手こずった記憶を思い出したのだが・・・。							

調査地点 No. 23	桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録						
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク						
参加者氏名	住倉英孝 ・ 諏訪部 晶						
河川名 (調査地名称)	玉川、支流・多々良沢(たたらざわ)						
調査場所	厚木市七沢、県自然環境保全センター内						
調査場所の 緯度・経度	N35° 26′ 26. 6″ E139° 17′ 30. 6″						
	計 測 結 果 凡例 /:調査せず ―:計測せず						

			計	測 結 界		儿例 /	<b>~:調査せす</b>	一:計涉	りせず
採集日	201	2年(8月20	日)	2013年(7月30日)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	ı	-	-	-	-	70 F G			
<b>中</b> (20≦L<30)	I	-	-	-	I	_			
<b>小</b> (L<20)	I	-	-	-	-	-			
合計数	_		15	3	5	8			
総質量(g)			281		-	88			





アブラハヤ(100mm、5尾 50mm、1尾)・モクズガニ、 2尾(甲幅80mm)・ドジョウ、1尾(150mm)・カワニナ、5

### 調査の感想

調査地は、厚木市七沢にある神奈川県自然環境保全センター施設内を流れる多々良沢。その最下流部の堰堤直下の落ち込みと沼の余剰水が流れ落ちる淵の2箇所にアナゴカゴを設置した。昨年度のアメリカザリガニ実態調査では、上流部にある池5で実施した。池2では、2年続けて、池のかいほりをしてアメリカザリガニなど外来種の駆除を行っている。その他、センターでは、一般の見学者を対象に「ザリガニ釣り」で駆除も行っているし、駆除用のアナゴカゴを池や沼、沢にも設置している。これらの成果であろうか、施設内を流れる多々良沢からアメリカザリガニの姿が徐々に少なくなってきているような気がしている。

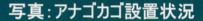
#### そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ・ギンヤンマ

調査地点	Vo. 24 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 ・ 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	玉川、支流・上谷戸沢(かみやとざわ)
調査場所	厚木市七沢、坂下橋(さかしたばし)
調査場所の 緯度・経度	N35° 27′ 02. 6″ E139° 17′ 47. 2″

			計	測結果		凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず
採集日	2012年(実施せず)			2013年(8月31日)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)					I				
<b>中</b> (20≦L<30)				_	_	_			
小 (L<20)					-	-			
合計数				0	0	0			
総質量(g)				0	0	0			

写真:調査地の周辺環境





混獲した生きもの

調査の感想

アブラハヤ(体長100mm、6尾 60mm、10尾)・モクズ ガニ、1尾(甲幅80mm)・ツチガエル、1尾 ・コヤマトンボ、 1尾

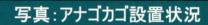
そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ

調査地は、玉川の上流部、上谷戸沢の坂下橋下流の 堰の上部。水路は2面コンクリートの護岸。左岸には土 砂が堆積し、植物が繁茂している。左岸の陸上植物が 生い茂る場所にアナゴカゴを設置した。アメリカザリガニは 入らず、丸々と太ったアブラハヤとモクズガニ、ツチガエル、 コヤマトンボのヤゴが採集された。2002年8月の玉川水 系生きもの調査では、アメリカザリガニは沢山採集されて 測定するのに大変だった。今回の調査で、モクズガニが捕 獲された場所では、アメリカザリガニが捕獲される数が少 ない傾向が見られたが、この坂下橋の調査地点も、その 傾向であった。

調査地点	No. 25 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 • 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	恩曽川(おんぞがわ)
調査場所	厚木市上古沢、野竹沢橋(のたけざわばし)
調査場所の 緯度・経度	N35° 27′ 30. 2″ E139° 18′ 29. 2″

			計	測 結 集		凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず
採集日	201	2年(実施t	<b>±ず</b> )	201	3年(7月30	)日)	2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				-	ı	-			
<b>中</b> (20≦L<30)				_	_			/	
<b>小</b> (L<20)				_	-	- <del>-</del>			
合計数				0	1	1			
総質量(g)				0	7	7			





・アブラハヤ(体長100mm、1尾 50mm、1尾)・ブルーギ 調査地は、恩曽川の最上流部にある野竹沢橋下流のル、10尾(体長60mm) 堰堤の溜まり。野竹沢橋より上流が、恩曽川が野竹沢

### 調査の感想

堰堤の溜まり。野竹沢橋より上流が、恩曽川が野竹沢と名称が変わる。水路は2面コンクリートの護岸。左岸には土砂が堆積し植物が繁茂している。堰堤の右岸の岸より

土砂が堆積し植物が繁茂している。堰堤の右岸の岸よりにアナゴカゴを3個設置した。アメリカザリガニとアブラハヤが一つのカゴに、他の大きなカゴには、驚くことに体長60mmほどのブルーギルが10尾も入っていた。残念なことには、恩曽川の最上流部に位置する堰堤の溜まりにブルーギルが10尾も採集されたことである。2001年8月の恩曽

川水系生きもの調査では、オオクチバスが1尾捕れてびっくりしたものだが、今回はブルーギルであった。

#### そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ

調査地点	No. 26	桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名		神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名		住倉英孝 • 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)		恩曽川、支流・市道川(いちどうがわ)
調査場所		厚木市上古沢、市道
調査場所の 緯度・経度		N35° 27′ 43. 5″ E139° 18′ 29. 0″

			計	測結果	·	凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず
採集日	201	2年(実施も	±ず)	201	3年(7月30	(日)	2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				ı	-				
<b>中</b> (20≦L<30)				-	_	-			
小 (L<20)				1	_	-			
				0	0	0			
総質量(g)				0	0	0			

写真:アナゴカゴ設置状況



### 混獲した生きもの

アブラハヤ(体長100mm、11尾 60mm、3尾)

### 調査の感想

恩曽川の上流部に位置する、支流の市道川(いちどうが わ)。上古沢橋で、恩曽川と合流する。調査地は、市道 川の上流部の堰の溜まり。水路は2面コンクリートの護 岸。川底には土砂が堆積し、堰の左岸には用水路の取 水口がある。水草が川一面を覆い、その根元にアナゴカゴを設置した。アブラハヤが14尾ほど入っていた。アナゴカゴの周りには、体長30mmほどのアブラハヤの稚魚が無 数に泳ぎ回っていた。県のRDBでは、アブラハヤは準絶滅 危惧種だが、ここ恩曽川や市道川では、無数に生息して いた。

#### そのほかに観察した生きもの

・ミヤマカワトンボ・ハグロトンボ・オオシオカラトンボ・シオカラト ンボ・ショウジョウトンボ・ホソミイトトンボ

調査地点	lo. 27 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 ・ 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	恩曽川
調査場所	厚木市温水、高浅橋(たかせんばし)
調査場所の 緯度・経度	N35° 26′ 42. 0″ E139° 20′ 13. 4″

			計	測結果	-	凡例 /	´:調査せず	一:計測	川せず
採集日	201	2年(実施も	±ず)	201	3年(7月30	日)	2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				1	ı	-			
<b>中</b> (20≦L<30)				I	_	-			
<b>小</b> (L<20)				1	_	-			
合計数				0	0	0			
総質量(g)				0	0	0			Property of

### 写真:アナゴカゴ設置状況



#### 調査の感想

アブラハヤ、3尾(体長60mm)・タモロコ、2尾(体長40m m)・モクズガニ(甲幅70mm、2尾 甲幅50mm、5尾)・ 甲羅に数字の印が貼られていたミシシッピアカミミガメ、1匹 (後日、東京農大の学生が研究のため放流したものだと分 かる。)

#### そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ・シオカラトンボ

調査地は、恩曽川の中流域にある高浅橋(たかせんば し)の下流。ここは、神奈川工科大学の底生生物の調 査場所であり、2013.8.11に行われた「県下一斉河川水温調査場所」でもある。恩曽川の中流域は、コイの 生息が多く、どこに行ってもコイが見られる場所が多い。そ のようなコイの多い場所を外して、この地を選んだ。両岸 は蛇篭が設置されている珍しい土水路である。左岸の柳 の木の根元にアナゴカゴを設置した。アメリカザリガニは入 らず、アブラハヤ、タモロコ、モクズガニ、ミシシッピアカミミガ メが採捕された。今回の調査では、モクズガニが捕獲され た場所では、アメリカザリガニが捕獲される数が少ない傾 向が見られたが、この高浅橋の調査地点も、その傾向で あった。

調査地点 N 調査団体名		No. 28	桂				リカザリガニ	調査記録		
調査団	体名					マー・ネットワ				
参加者				1	<b>住倉英孝</b>	• 諏訪	部 晶			
河川 (調査地					小鮎川(こ	こあゆがわ)				
調査場	易所	愛甲郡清川村柳梅(やなめ)、柳梅橋								
調査場 緯度・				N35° 28	′ 26. 8″	E139° 17	′ 11. 1″			
			計	測結界	Ę	凡例 /	∕:調査せず	一:計	則せず	
採集日	201:	2年(実施も	±ず)	20	13年(8月6	日)	2014	4年(実施 <sup>-</sup>	せず)	
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)				-	-	_			/	
<b>中</b> 20≦L<30)				-	-	-				
小 (L<20)				-	_	-				
合計数				1	0	1				
総質量(g)				25	0	25				
THE RESERVE OF THE PARTY OF THE	与、自・意思~	合州(/) 唐	训悟뱹			写首・ア	ナコカコミ	/ 旹状 沅		
	与具:調1	査地の周	<b>辺</b> 境境			写真:ア	ナゴカゴ該	と置状況		
	<b>与具: 調</b> :	全地の局	辺境境		<b>E</b> **	写真:ア	ナコカコ彭	<b>と直状</b> 汤		
	与具:調1	全地の周	迎境境			写真:ア	ナコカコ語	<b>设置状</b> 汤	(m)	
	与具:調2	全地の局	迎境境			写真:ア	ナコカコ記	<b>设置状</b> 流		
	与具:調2	全地の周	迎境境			写真:ア	ナコカコ記	<b>发</b> 直状汤		
	与具:調2	全地の局	迎境境			写真:ア	ナコカコ設	<b>发</b> 直状汤		
	与具:調2	全地の高	迎境境			写真:ア	ナコカコ設	这直状汤		
	混獲	した生き	ŧo				調査の感気	思		
E-クズガニ、4月n、53.3mm	<b>混獲</b> 尾(甲幅77 m)・アブラノ	した生き: . 2mm、4 \ヤ、3尾(な	<b>5.</b> 2mm,		にある堰堤	流部の愛甲	<b>周査の感</b> が 郡清川村。 を調査地に	<u>現</u> 「清川運動 選んだ。上	か公園」横流には柳	
モクズガニ、4J	<b>混獲</b> 尾(甲幅77 m)・アブラノ	した生き: . 2mm、4 \ヤ、3尾(な	<b>5.</b> 2mm,		にある堰場梅橋(やな	流部の愛田の落ち込みである。	問査の感が 郡清加村。 を調査地に 流右岸には	引 「清川運動 選んだ。上 別所川の	か公園」横流には柳流れ込み。	
E-クズガニ、4月n、53.3mm	<b>混獲</b> 尾(甲幅77 m)・アブラノ	した生き: . 2mm、4 \ヤ、3尾(な	<b>5.</b> 2mm,		にある堰場 梅橋(やな さらにその る。この高	流 部 の 変 込 い に は 、 に さ ち に は た た た た た た に た に た に た に た に に に に に に に に に に に に に	周査の感が 郡清川村。 流流右岸以上 ある堰堤を	リ   清   清   川だ。の   運上の   地方の   もうの   地方の   地方の   地方の   地方の   もっと   もっ   もっ   もっ   もっ   もっ   もっ   もっ   も   も   も   も   も   も   も   も   も   も	が公園」横 流にはみる が発えて が発えて り	
E-クズガニ、4月n、53.3mm	<b>混獲</b> 尾(甲幅77 m)・アブラノ	した生き: . 2mm、4 \ヤ、3尾(な	<b>5.</b> 2mm,		にある堰場梅橋(やなさらにそのる。この高は変化して、アブラノ	流の落ち)。は、上流のがあるといった。 では、上流のは、このとができる。 できたができた。	問査の感気 郡清査岸い地には上を 高さるる渓ように 息にはするように	15、「選別も境のなり、「選別も境のない。」 「選別も境のないを調査」にいる。	が 流れ 変に 込え 気が に が が が が が が が が が が が が が	
ラクズガニ、4月 n、53.3m こ、1尾・コヤ	<b>混獲</b> 尾(甲幅77 m)・アブラノ	した生き 2mm、4 ハヤ、3尾(な	<b>もの</b> -5. 2mm、 本長100m	m) • サワガ	にある堰場梅のである。この高はアブライスの生きもずりガニは	流のない。 一般では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	周査の感染 郡調右所を 一本 郡調右所を ででである ででである。 ででである。 ででである。 ででである。 ででである。 ででである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	<b>別</b> 「選別も境のなった 川だ川る、き。がは 川に川堰小物調こ、 重上の場魚、香こモ	が流流が出りませた。これではいる。これではいる。これではいる。これではいる。これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	
ラクズガニ、4月 n、53.3m こ、1尾・コヤ	混獲 電(甲幅77 m)・アブラノ マトンボ(幼)	した生き: . 2mm、4 ハヤ、3尾(タ )、1尾	もの -5. 2mm、 *長100m	m) • サワガ	にある堰場場である。一番では、一番では、このでは、このでは、このでは、アケーは、では、アケーは、では、アケーは、では、アケーは、では、では、では、では、できる。これでは、できる。これでは、できる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	流のはいた。 一部をしている。 ではいるとはいるができる。 ではいるとないでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	<b>周査の感え</b> 都調右 那調右 を 流 る る は す る に は す る に る に る る に る る に る る は す る る し る し る し る る し る る し る る し る り る る し る り る る る る	別「選別も境のなっをごり、「選別も境のなっをごり、」「選別も境のなっをごり、「というでは、「は、「は、」というでは、「は、「は、「は、」というでは、「は、「は、」というでは、「は、「は、」というでは、	が流れがいか地にしている。これではいる。これではいる。これではいるでは、いいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	

調査								Dept. Street, Sales	PARTER REPORT		
調査団体名		No. 29 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録 神奈川ウォーター・ネットワーク									
					奈川ウォーター・ネットワーク						
参加名氏? 河川名	注倉英孝 · 諏訪部 晶 ————————————————————————————————————										
(調査地名称	Ⅱ、支流・金	井川(かな) 	いがわ)								
調査場所				厚木市	林、平成村	喬上流の右	岸				
調査場所の 緯度・経度				N35° 27	′ 40. 3″ I	E139° 20	′ 50. 4″				
			計	測結界	Į.	凡例 /	′:調査せず	一:計測	りせず		
採集日	2012	2年(実施せ	(ず)	20	13年(8月6	日)	2014	l年(実施t	<b>±ず</b> )		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)				-	_	-					
<b>中</b> (20≦L<30)				-	-	_					
<b>小</b> (L<20)				_	_	-					
合計数				15	10	25					
総質量(g)				-	-	346					
写真	复:調3	を地の周	辺環境		写真:アナゴカゴ設置状況						
				THE PLANT							
					1		Property of the second		才大		
文章		大學會	是吴						J.		
			See.						THE		
	人公										
		A A									
	民等		16.3								
	混獲	した生きも	<b>5</b> 0		調査の感想						
アブラハヤ、1尾(な O. 3mm)・カワリ	本長 50 ヌマエビ!	Omm)・モク 属、21尾	プズガニ、1月 ・ヌカエビ、1	尾(甲幅2 1尾			は、本流の生 いている。本流				
				.,,	などはかけた	がいのない過	難場所でも こる。平成橋	ある。ここ会	全井川も、		
					川に流れ込	む。この流れ	hは、久保橋	手上流の堰	堤を取水		
				8	水路でミゾ	ソバなどの植	の田畑を潤し 動が生い茂	っている。プ	アブラハヤ		
701	まかに	観察した	生きもの				コ、モツゴなと であるが、今				
・ハグロトンボ・ウス			<b>TC 00</b>	Prisand Manie.			ここまでの最				

	調査地点	No. 30	桂	Ⅲ•相模川	流域協議	会アメリカ	カザリガニ部	査記録			
						奈川ウォーター・ネットワーク					
参加者	主倉英孝	• 諏訪·	部晶	7:							
河川 (調査地					小魚	钻川					
調査均	易所			厚	本市林、村	木妻橋(りん	さいばし)				
調査場 緯度・				N35° 27	′ 23. 0″ I	E139° 21	15. 2"				
			計	測結果	Į	凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず		
採集日	201	2年(実施も	!ず)	20	13年(8月6	日)	201	4年(実施t	±ず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)					1 -	-					
<b>中</b> (20≦L<30)				-	-	-					
小 (L<20)				_	-	-					
合計数				2	0	2					
総質量(g)	写真:調		· ·-	28	0	28	ナゴカゴ討				
	识推	した生き					査の感				
アブラハヤ、11 尾) ・ハグロトンボ・	尾(体長50	0mm、5尾 観察した	体長100	Omm, 6	み。知る人 の高台に水 態を保って いる場所で	下流域に位 ぞ知るこの/ く源があり、「 いる。アブラ もあるが、約 される。アメリ	置する林妻 いさな流れは 常時本川よ ハヤ、アメンで 色滅危惧種	橋下流の右 は、近くの緑 りも透き通り ボ、ヌカエビが IB類のホトク	ケ丘方面 )冷たいも が生息し ァドジョウァ		

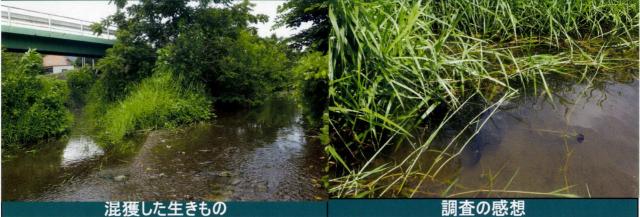
ā	<b>青</b> 查地点	No. 31	桂	川•相模/	川流域協議	養会 アメリ	カザリガニ記	周査記録		
調査団	体名			神	奈川ウォーター・ネットワーク					
参加者	氏名		住倉英孝・諏訪部 晶							
河川(調査地			荻野川(おぎのがわ)							
調査場	易所			厚木	市及川、三	河尻橋(み	かわじりばし	,)		
調査場 緯度・				N35° 27	′ 54. 4″ I	E139° 20	57. 4"			
			計	測結界	Į	凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず	
採集日	201	2年(実施	せず)	20	13年(8月6	日)	2014	4年(実施t	<b>±ず</b> )	
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)				_	-	_				
<b>中</b> (20≦L<30)				-	-	-				
小 (L<20)				-	-	-				
合計数	/			0	0	0				
総質量(g)				0	0	0				
7	字真:調	査地の居	辺環境		No promorphism of	写真:ア	ナゴカゴ該	と置状況		
		Manage								
・アブラハヤ、1 マエビ属、18月 ニ、1尾(甲幅 m)	尾(体長5 ፪・オイカワ 83.6mm	フ、1尾(体 <sub>:</sub> n)・ウグイ、	ジエビ、3尾 長60mm)	・モクズガ	の落ち込みが繁茂してる場所では たが、この場 た場所では	下流部、三河と左岸の土 いた場所に 、アメリカザ! 。 、アメリカザ! 、アメリカザ!	を の感な できない できない できない できない できない できない かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう できない できない かいしゃ かいしゃ かいしゃ かいしゃ かいしゃ かいしゃ かいしゃ かいし	の堰堤(高 た岸辺。ツを設置した。 は難しいと モクズガニがされる数が	ルヨシなど , 流れがあ 言われてい が捕獲され 少ない傾	
・ハグロトンボ										

調査地点	No. 32	桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名		神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名		住倉英孝 ・ 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)		荻野川
調査場所		厚木市荻野、弁天橋(べんてんばし)下流(真弓川合流点)
調査場所の 緯度・経度		N35° 29′ 24. 0″ E139° 19′ 05. 7″

			計	測結果	Mark I	凡例 /	′:調査せず	一:計測	りせず
採集日	2012年(実施せず)			2013年(8月6日)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				-	-	-			
<b>中</b> (20≦L<30)				-	-	-			
<b>小</b> (L<20)				-	-	-			
合計数	/			0	0	0			
総質量(g)				0	0	0			

写真:調査地の周辺環境

# 写真:アナゴカゴ設置状況



・アブラハヤ、4尾(体長100mm)・カワムツ、3尾(体長8 Omm)・モクズガニ、2尾(甲幅63.5mmと70.0mm)

そのほかに観察した生きもの

・シオカラトンボ・ハグロトンボ

荻野川の中流域にある真弓川との合流点。上流には、 弁天橋。右岸からは真弓川の流れ。時々、合流点の橋 の上から川の様子を観察していると、ウシガエルやアメリカ ザリガニ、ギンブナ、アブラハヤなどが見られる。モクズガニ が捕獲された場所では、アメリカザリガニが捕獲される数 が少ない傾向が見られたが、この真弓川との合流点での 調査でも、その傾向が見られた。やはり、アメリカザリガニ は、アナゴカゴには入らなかった。モクズガニが、このような 地での優占種であろう。また、驚くべきことに、体長80m mものカワムツが採捕されたことは憂慮すべき問題だと思 われる。善明川が数年で、カワムツがオイカワやアブラハヤ を駆逐したように、この荻野川も近い将来、アブラハヤや オイカワがいなくなるであろうか。心配である。

調査地点	No. 33 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 ・ 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	荻野川、支流・田尻川(たじりがわ)
調査場所	厚木市上荻野、荻野川合流点より上流20m
調査場所の 緯度・経度	N35° 30′ 30. 9″ E139° 18′ 23. 2″

			計	測結り		凡例 /	´:調査せず	一:計測	りせず
採集日	2012年(実施せず)			2013年(8月6日)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				-	I	-			
<b>中</b> (20≦L<30)				-	_	-			
<b>小</b> (L<20)				-	_	-			
合計数				0	0	0			
総質量(g)				0	0	0			

写真:調査地の周辺環境

真:アナゴカゴ設置状況



#### 混獲した生きもの

・アブラハヤ、90尾(体長100mm)・オオクチバス、5尾

# 調査の感想

(体長60mm)・ドジョウ、1尾・カラドジョウ、2尾

# そのほかに観察した生きもの

・アメリカザリガニ・ミヤマアカネ・ハグロトンボ・シオカラトンボ

厚木市上荻野の田尻を流れる田尻川。ほとんどが三面 護岸である。その流れが荻野川に合流する最下流部 で、川幅が最大でも1.5m、水深も最大で0.6m、奥 行きが15m程の長方形のような形をした場所を調査地 点として選んだ。水の流れはほとんどなく止水状態の溜ま りのようでもあった。また、この調査地点だけが二面護岸 であった。このような場所に、アブラハヤが優占種で、オオ クチバス、カラドジョウなどの外来種も生息していた。こん な狭い場所から、アナゴカゴ3つで90尾も採捕されたこと は驚きであった。1999年と2006年の調査でもブラック バスの生息が確認されている。何故、こんな場所にブラッ クバスがと思うが、現実である。近くの荻野川の瀬には、ア ブラハヤの稚魚の群れが泳ぎ回り、その稚魚の間をアメリ カザリガニが一匹逃げ回っていた。

I	調査地点	No. 34	桂	川•相模/	流域協調	養会 アメリ	カザリガニ言	周査記録			
調査団	体名			神	奈川ウォーター・ネットワーク						
参加者	氏名			住力	<b>倉英孝</b> •	諏訪部	晶				
河川 (調査地					善明川(ぜ/	しみょうがわ	)				
調査均	揚所			厚木市棚	沢、蟹沢橋	ま(かにざわは	ばし)上流				
調査場 緯度・		N35° 3			′ 13. 7″	E139°20	′ 50. 2″				
			計	測結界	Ę	凡例 /	´:調査せず	一:計》	則せず		
採集日	201	2年(実施t	±ず)	2	013年(月日	3)	201	4年(実施	<b>せず</b> )		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)				-		-			/		
中 (20≦L<30) 小				-	-	-					
小 (L<20)				-	-	-					
合計数		Bitation Planting and the		6	5	11			Marie Carlotte		
総質量(g)				-	-	116					
	700										
・ギンブナ、2月		した生き		大三112	由津川が	<b>訂</b> から水を引く	調査の感想		さまる田水		
マンファ、2月 Omm 体重6 1g)					路は、川幅中に、センイやアユ、た。その用にれ落ちてかは、最上流	晶が1m程の ニンモやホザ フナ、オイカワ 水が暗渠(近 らが、善明) 記部から10n	三面コンクリキノフサモ、「などが群れ」 直路)を抜け IIの最上流	ート護岸。 コカナダモが をなして泳を 、階段状の 部となる。 こ の岸辺とカ	その流れの繁し、これである。 繁回っていい 無道を流 間査地点 ででとよが		

調査地点	lo. 35 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 • 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	善明川
調査場所	厚木市下川入(しもかわいり)、下川入善明川の水辺
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 48. 9″ E139° 21′ 17. 1″

			計	測結集		凡例 /	∕:調査せす	一:計測	りせず
採集日	201	12(9月12	日)	201	3年(8月20	(日)	201	4年(実施セ	<u>せ</u> ず)
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)	1	2	3	1	-	-			
<b>中</b> (20≦L<30)	14	6	20	_	_	-			
<b>小</b> (L<20)	0	0	0	-	-	_			
合計数	15	8	23	8	12	20			
	NAME OF THE OWNER OF THE OWNER, T								<b>计数数数据显出的数据数据</b>

調査地の周辺環境

総質量(g)



混獲した生きもの



調査の感想

画像が表しているように、善明川で一番美しい場所、遊 びやすい場所でもある「下川入善明川の水辺(しもかわ いりぜんみょうがわのみずべ)」は、厚木市多自然川づくり 事業の一環で作られた場所である。水源環境保全税で 整備され、良好な河川環境の創出、コンクリートブロック 積護岸の一部を改修し、川の流れを取り組み、自然に 配慮した工法により水辺を整備することで生物多様性を 回復するとともに、健全な水循環機能の向上を図ってい る。川の左岸の所々にミゾソバやジュズダマ、アヤメ類が 生い茂り、川底にはセンニンモ、ヤナギモ、ホザキノフサモ などが繁茂していた。良好な環境も作られているが、残 念なことに、アメリカザリガニやカワムツなどの外来種が至 る所で見られた。

# そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ・シオカラトンボ・ウスバキトンボ・コオニヤンマ・カ ワムツ・ヌカエビ・カワリヌマエビ属・スジエビ

i	調査地点	No. 36	桂	川•相模	川流域協調	義会 アメリ	カザリガニ語	凋査記録		
調査団	体名			神	奈川ウォーター・ネットワーク					
参加者	氏名	氏名                 住				諏訪部	晶			
河川 (調査地					善	明川				
調査均	易所			厚木市下	川入、長坂	近山の根水流	辺の広場			
調査場 緯度・				N35° 29	′ 21. 8″	E139°21	' 26. 9"			
			計	測結り	Į	凡例 /	′:調査せず	一:計》	削せず	
採集日	201	2年(実施t	せず)	201	3年(8月20	)日)	2014	4年(実施t	<b>±ず</b> )	
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計	
<b>大</b> (30≦L)				-	_	-				
中 0≦L<30) 小		/		-	-	_		/		
(L<20)				_	-	-				
合計数			Principle Company	0	1	1				
総質量(g)				0	12	12				
<b>∃</b> クズガニ、4.		した生きも 54.7mm 54		1 mm	あ岸には蚊		る ない。 され、ツルヨシ		7 3111	
2.2mm)・カワ	ムツ、10尾	(体長100m			バ、ツュクサ 央を勢いよ の橋」下流と のに戻るたっ られる。アナ り上流で流	、メリケンガ く水が流れて 連動している でせき止める が、水量のご ゴカゴの設っ れのゆるやか	インツリなどがれていた。この分る。善明川の る。善明川の られ水田に引 多い季節には であるは、広いな場所を選 アナゴカコには	繁茂していた 会員は、田/ り中流域に けかれた水か はこのような は場の前に ほんだ。回収	た。その「 いぼん」「「 かかる「 で で で が あい が あい が ろ で が ろ で が ろ で が ろ で が る で う が う る り た う た う た う た う た う る て ろ れ る ろ く ろ く ろ く ろ く ろ し ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と	

調査地点	No. 37 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク
参加者氏名	住倉英孝 • 諏訪部 晶
河川名 (調査地名称)	山際川(やまぎわがわ)
調査場所	厚木市山際、小平橋(こだいらばし)
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 34. 4″ N139° 22′ 08. 2″

#### 計 測 結 果 凡例 /:調査せず 一:計測せず

採集日	2012年(実施せず)			2013年(8月20日)			2014年(実施せず)		
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				-	_	-			
<b>中</b> (20≦L<30)				I	_	-			
<b>小</b> (L<20)				I	_	-			
合計数				8	4	12			
総質量(g)					_	135			

# 写真:調査地の周辺環境

# 写真:アナゴカゴ設置状況



#### 混獲した生きもの

#### 調査の感想

・ギンブナ、1尾(体長50mm)・トウキョウダルマガエル、1 尾

### そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ・アジアイトトンボ・ウシガエル・ギンブナ・アブラ ハヤ・マルタニシ・ミナミメダカ・ヒメガムシ

山際川の下流域に位置する小平橋は、2006年頃を境 に圏央道建設のあおりを受けて流路が大幅に変更されて しまった。川幅、底質、河原の植物、流路などが変わり、 布団カゴも設置されたりしていた。調査地点は、小平橋上 下流左岸の植物の繁茂する岸辺を選んだ。2006年の 調査では、川底が見えないほど水草が繁茂し、フナやオイ カワ、ウキゴリ、ナマズ、ドジョウが沢山採捕された場所で あったが、今はその面影はなかった。この河川は、夏場に水 を流し、冬場に水の涸れる状態となる。かっては、左岸の 用水路から流れ落ちてくる水音は大きく力強かったが、今 回はその面影もなかった。アメリカザリガニが川岸近くに埋 設された布団カゴの中で所狭しと動き回っていた。前日の 19日にアナゴカゴを設置したときには、ギンブナが群れをな して泳ぎ回っていたが、20日は一尾も見られなかった。ま た、放流されたミナミメダカであろうか、岸辺近くを群れとなり 泳ぎ回っていた。

調査地点	0. 38 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録					
調査団体名	神奈川ウォーター・ネットワーク					
参加者氏名	住倉英孝 • 諏訪部 晶					
河川名 (調査地名称)	山際川					
調査場所	厚木市山際、馬坂下橋(うまざかしたばし)					
調査場所の 緯度・経度	N35° 29′ 58. 9″ E139° 21′ 58. 5″					

TESTER	計 測 結 果 凡例 ╱:調査せず ─:計測せず									
採集日	2012年(実施せず)			2013年(8月20日)			2014年(実施せず)			
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)				1	I	1				
<b>中</b> (20≦L<30)				-	I	I				
小 (L<20)				I	I	-				
合計数				3	11	14	/			
総質量(g)						176				

写真:調査地の周辺環境

写真:アナゴカゴ設置状況



### 混獲した生きもの

ドジョウ、2尾(体長60mm)

# そのほかに観察した生きもの

・ハグロトンボ

# 調査の感想

山際川の中流域に位置する馬坂下橋は、2006年頃 から圏央道建設のあおりを受けて流路が変更されてし まった場所の一部である。相模川から水を引き流れる形 態は変わっていなかったが、川幅、底質、河原の植物、 流路などが大幅に変わっていた。二面コンクリート護岸 で、川底は砂利を敷き詰め、蛇篭が設置されたりしてい た。調査地点は、馬坂下橋上流左岸のツルヨシが繁茂 する岸辺を選んだ。直線の水路の所々に見られるのはヨ シやジュズダマ、ツユクサ、オオブタクサ、アメリカイヌホオヅ キ、ミゾソバであった。2006年の調査では、川底が見え ないほどオオカナダモが繁茂し、ギンブナが沢山採捕され た場所であったが、今はその面影はなかった。この河川 は、夏場に水を流し、冬場に水の涸れる状態になる。そ のため、アメリカザリガニやドジョウが大発生している。ま た、放流されたミナミメダカであろうか、岸辺近くを群れをな して泳ぎ回っていた。

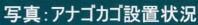
調査地点 №. 39 桂川・相模リ					ASSESSMENT AND STREET		THE RESERVE AND THE PARTY OF TH	<b>香記録</b>	
調査団体名					奈川ウォータ				
参加者河川				1± 2	倉英孝 ·	諏訪部	崩		
(調査地					山原	祭川 			
調査均				厚木市山	際、神明ノ	木橋(しんめ	いのきばし	)	
調査場 緯度・編				N35° 30	)' 20. 2 E	139° 22′	00. 2"		
				計測統	吉 果 凡	L例 /:調	査せず -	─: 計測せす	
採集日	201	2年(実施t	±ず)	201	013年(8月20日) 2014年(実)			4年(実施t	せず)
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数
<b>大</b> (30≦L)				_	_	-			
中 (20≦L<30) 小				-	_				
<b>小</b> (L<20)				1	_	-			
合計数				5	1	6			
総質量(g)						118			
	海海	<b>左</b> 丹李							
混獲した生きもの ・モツゴ、5尾(体長40mm)  そのほかに観察した生きもの ・ハグロトンボ					調査の感想 山際川は、この時期、相模川から水を引いている。用水路は、三面コンクリート護岸で、多くの整備された水田を潤していた。水田を潤し終えた水は用水路に戻り暗渠を抜け山際川最上流部を形成していた。また、この地点は、「トンボ池」から流れる小さな水路とも合流していた。調査地点は、山際川架かる最初の橋「神明ノ木橋」上流左岸のツルヨシが繁茂する岸辺を選んだ。川底にはオオカナダモが、直線の水路の所々に見られるのはツユクサとオオイヌタデであった。2006年の調査では、暗渠から神明ノ木橋までは川底が見えないほどオオカナダモが繁茂し、各鰭がオレンジ色で美しい国内外来種のカワムツが沢山採捕された場所であったが、今回はその面影はなかった。9月中旬を過ぎると、川の水は少なくなり用水路は完全に干上がる。特に、用水路の一部に取り残された生き物を観察するのは楽しい。				

#### ■一覧表と同じ調査地点番号順に調査記録票を掲載します。 ただし、地点No.15・16・17・40・41・44の調査 記録票は掲載していません。

調査地点	No. 42 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	桂川・相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会
参加者氏名	峯谷 一好
河川名 (調査地名称)	相模川右岸平塚市側農業用水路「田村用水」通称「田村堀」幹線用水路
調査場所	神奈川県平塚市吉際 落水後の農業用水路での結果
調査場所の 緯度・経度	N35° 23′ 41.7″ E139° 21′ 33.2″

the state of the										
採集日	2012年(10月5日)			2013年(9月21日)			2014年(9月19日)			
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)	21	11	32	156	54	210	13	1	14	
<b>中</b> (20≦L<30)	6	2	8	22	3	25	4	0	4	
小 (L<20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計数	↑ 40匹抽出結果		151	178	57	235	17	1	18	
総質量(g)	総数15	総数151匹結果→		3,995	1,428	5,423	361	35	396	

# 写真:調査地の周辺環境







幹線用水路

周囲の田んぼ



2014 →



# 2013年のアナゴカゴでの捕獲状況



# 混獲した生きもの

2013 ドジョウ一匹 2014 ドジョウ 8cm、9cm 2014 フナ 7cm 2014 ナマズ 19cm

# 調査の感想

農業用水の堰を落とした後 に実施 2012捕獲総数151 分析は内40匹について行った 2013捕獲総数235

2014調査時18匹であり、2012,2013時のような状況にはなかった。この原因を推定すると、幹線用水路の堰の下には側面から排水が出ており、温度も高く(2012年10月調査時水路14度、排水18度)あぶくも発生して、汚れた感じで、この排水の直下を中心にアメリカサブリカニが群がっていた。この場所にアメリカサブリカニが多量にいた原因でないかと思われる。

2014調査時は、排水も透明に近く、あぶくもなかった。

調査地点	No. 43 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録
調査団体名	桂川·相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会
参加者氏名	市民会員 武井 平弌(資料整理 峯谷 一好)
河川名 (調査地名称)	相模川右岸平塚市側農業用水路「田村用水」通称「田村堀」の一部
調査場所	相模川右岸平塚市田村 ①幹線用水路②小水路
調査場所の 緯度・経度	①N35° 22′ 51.2″ E139° 21′ 17.6″ ②N35° 22′ 49.2″ E139° 21′ 16.7″

	Marian   1977   197										
採集日	2012年(9月3日)			2013年(月日)(実施せず)			2014年(月日)(実施せず)				
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数		
<b>大</b> (30≦L)	10	1	11								
<b>中</b> (20≦L<30)	24	7	31								
<b>小</b> (L<20)	0	0	0								
合計数	34	8	42								
総質量(g)	472	86	558								
	写真:調査地の周辺環境			写真:アナゴカゴ設置状況							



②小水路

写真:アナゴカゴ設置状況





②小水路

1幹線用水路

混獲した生きもの

- ②畦道横農業用小水路で
- 1)ナマズ 30cm1匹 2)フナ 5cm 各1匹

# アナゴカゴでの捕獲状況

参考)捕獲時の籠の状況



# 1幹線用水路

①幹線用水路での生物捕獲は0匹であった

調査の感想

- ②畦道横農業用小水路でたくさん捕獲できた
- ①幹線用水路水量多い 流速約18m/min
- CODパックテスト結果
- ①農業用水路本流用水路 7程度
- ②農業用水路あぜ道横 24程度(4倍希釈で6)

■一覧表と同じ調査地点番号順に調査記録票を掲載します。 ただし、地点No.15・16・17・40・41・44の調査 記録票は掲載していません。

ただし、地	点No.15·1	6-17-40	-41-440	調査記録	票は掲載し	していません	0			
	調査地点	No. 45	桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査記録							
調査団	体名	桂川・相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会								
参加者氏名					峯谷	一好				
河川名 (調査地名称)				2.16	相模川ス	<b>本流右岸</b>				
調査均	易所		神奈	川県平塚	市相模川右	岸馬入水	辺の楽校 「	フンド		
調査場 緯度・				N35° 20	' 25.0"	E139° 22	2′ 04.7″			
				計測	結 果	建镁矿				
採集日	201	12年(8月7	目)	201	3年(6月14	日)	201	4年(5月17	7日)	
頭胸甲長 (mm)	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	オス	メス	合計数	
<b>大</b> (30≦L)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<b>中</b> (20≦L<30)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小 (L<20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総質量(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	写真:調	査地の周	辺環境			写真:ア	ナゴカゴ割	と置状況		
		APP CONTRACTOR			0010					
2012		した生き	50		2012	部	査の感	想		
アカミミガメ	そのほかに	ナマズ	コイ	ウナギ		回調査した バリカサ゛リカ゛ニに 7/16		した		
馬入水辺の郷	<b>美校に於ける</b>	5 生物調剤	をではワンド	で以下の生	物が観察さ	れました				
<u>実施日</u> <b>魚類</b>	2014/8/24	1, 2014/5/	17 甲殻類				その他			
ウナギ属 ウグイナ コイ科 テングヨウジ ボラ ミナミメダカ シマイサキ	ウナギ属 ウグイ クロホシマンジュウダイ テナガギンブナ カワアナゴ属 ミナミコイ科 ゴクラクハゼ ミゾレテングヨウジ ヌマチチブ エビ業ボラ アシシロハゼ ミナミメダカ ミミズハゼ			カ二類貝類属クロベンケイガイイシマキガイガエビモクズガニタイワンシジミ						
コトヒキ クロサギ	ヒナハゼ ウロハゼ									

#### まとめ

アメリカザリガニ実態調査は、相模川本流と相模川に流れ込む小河川について、本種が生息しそうな 45 地点を、2012 年~2014 年にかけて実施した。45 調査地点の内訳は、相模川本流 4 地点、鳩川水系 5 地点、目久尻川水系 8 地点、小出川水系 1 地点、中津川水系 4 地点、日向川水系 1 地点、玉川水系 2 地点、恩曽川水系 3 地点、小鮎川水系 3 地点、荻野川水系 3 地点、善明川水系 3 地点、山際川水系 3 地点、田村用水 5 地点であった。

採集されたアメリカザリガニは、2012 年は 358 尾、2013 年は 460 尾、2014 年は 171 尾、3年間で合計 989 尾 (総質量 16,161g)であった。一調査地点の最高採集尾数は、3 年間で 404 尾(総質量 9,519g)であった。

採集には、一地点でアナゴカゴを 3 個使用した。大カゴ 2 個(径 40cm×長さ 75cm)、小カゴ 1 個(径 15cm×長さ 30cm)であったが、カゴによって採集されたアメリカザリガニの大きさは違っていた。20mm以上のアメリカザリガニは、大カゴには入らず、小カゴにだけ入っていた。もし、大カゴだけを設置していたならば、20mm以下のアメリカザリガニの採集は難しかったのではないかと思われる。

3年間で一度もアメリカザリガニが採集されなかった場所は1か所で、相模川下流域の右岸に位置するワンドの、ナマズ、コイ、ニホンウナギなどが採集された場所であった。他に、一調査地点の採集0尾は12地点で、3年間で1回しか調査していない場所であった。これ以外の32地点で、アメリカザリガニが採集されその生息が確認された。一調査地点の採集0尾の地点の特徴として、混獲生物の存在が指摘できる。混獲生物は、モクズガニ(9地点)、ミシシピアカミミガメ(5地点)、クサガメ・ナマズ・ニホンウナギ・コイ(2地点)、オオクチバス(1地点)であった。特に、9地点においてモクズガニが確認されたことは、本種とアメリカザリガニが競合関係にあることを示唆しており、本調査において大きな発見であった。今後は、モクズガニをはじめとして在来生物とアメリカザリガニとの競合関係を調べ、アメリカザリガニの天敵となる生物の存在を調べていく必要性を感じた。

採集時に混獲された水生生物は、魚類 16種(オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、ギンブナ、コイ、モツゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ウキゴリ、ドンコ、ミナミメダカ、トウヨシノボリ、ヨシノボリ属、ニホンウナギ、ナマズ、オオクチバス、ブルーギル)、甲殻類 6種(サワガニ、モクズガニ、スジエビ、ヌカエビ、カワリヌマエビ属、テナガエビ)、爬虫類 2種(ミシシッピアカミミガメ、クサガメ)、両生類 3種(トウキョウダルマガエル、ツチガエル、ウシガエル)、トンボ類 1種(コヤマトンボ)、軟体動物類 1種(カワニナ)の 30種に及んだ。

今回の調査は、流域で活躍する多くの市民団体が集まって、意見を出し合いあって、調査方法やとりまとめ方法 について検討を行った。普段は各地域において、それぞれ個別に活動することが多いので、今回のように情報交換 を行いながら活発に話し合いを行うこと自体、とても有意義な体験であった。今後の参考のため、ここに、各地区の 担当者の感想を掲載する。

#### 相模原市•愛川町

相模川・中流域左岸のワンド 調査場所: 2地域(3地点): 新昭和橋下、磯部頭首工上流(三段の滝下流・ 八瀬川合流周辺)

調査地の特徴:本流や支流などから流水が入り、本流に合流するまでの間に形成されたワンド

採集のあった地点: ワンド岸が奥まって、ほとんど流れのない地点。流れは非常に緩やか、水際に潅木が茂り、伸びた枝が水に沈み、小さな生きものたちの育つような環境。

採集の無かった地点:多少流れのある環境での採集は無く、天敵の混獲もありませんでした。

中津川・中流域のワンド 調査場所:3地域(5地点)

全調査地の特徴:農業用水路の水門脇から一部河川敷に落ちた水が本流に至るまでの間に形成したワンド採集のあった地点:流れは緩やかで、よどみのある環境。

採集の無かった地点:本流合流地点に近く、水量が多くて、多少流れのある環境。

まとめ:調査した相模川・中津川の中流域のワンドには、アメリカザリガニが生息していることがわかりました。同じ地域のワンドでもアナゴカゴ設置環境の違いで採集の有無があるのは、流速の違い等によると考えられます。

クサガメの混獲はありましたが、ナマズやモクズガニなどは入りませんでした。

提言:相模川のワンド付近は、公園施設やベンチのある見晴台もあるので、アメリカザリガニ他、外来生物の注意 点や相模川の外来種・在来種の掲示板など、子供たちにメッセージを伝えるものあるとよいと思いました。中津川に は、アメリカザリガニを駆除して保全の望まれるワンドもありました。 (あいかわ自然ネットワーク・大木)

#### 鳩川・縄文の谷戸

鳩川と段丘涯の間に位置し、湧水に恵まれ、森、田んぼ、畑、草原と多様な環境で谷戸という生態系が整っているはず、と思い込んで安心していました。ところが二年間の流域協議会の田んぼの生きもの調査をしてみて、生きものの生息が感じられない状況に、「何故、どうして、」と唖然としてしまいました。その時に大量に採取したアメリカザリガニが原因とわかり、駆除対策をとりました。田んぼの生きもの調査事業のアメリカザリガニ駆除活動として購入したアナゴ籠を6個、田んぼの水を温めるために作ったため池に設置しました。結果、赤くなった中くらい(7センチ~10センチ)のアメリカザリガニ 200 尾程、採取しました。大人のアメリカザリガニを一気に取ると、その後の増え方は目に見えて減少します。その後も普段から駆除を心がけ、子供たちにも理由をはなし、積極的に取ってもらうようにしています。油断をするとすぐに増殖します。また、大きなアナゴ籠には、タヌキが入ってしまい、抜けられずに弱っていたこともありますので、小さい籠のほうがよさそうです。アズマヒキガエルが時期になると必ず入っていますので、アメリカザリガニを食べるのではないでしょうか。天敵になってくれるといいですね。尽力をつくして頂いた関係者の方々に感謝いたします。

(鳩川・縄文の谷戸の会・倉橋)

鳩川・縄文の谷戸の会の方々が日常的にアナゴカゴを設置して駆除しても、なかなか根絶できないでいます。田んぼの脇の畦のくぼみに、大きなメスの個体がいました。田んぼの中にはアライグマの足跡があり、アメリカザリガニを食べに来ていると思われます。 なぜか鳩川・縄文の谷戸では小さなアナゴカゴに大きな個体がぎっしりと入り、大きなカゴには中位から小さい個体が入って、逃げ出しそうになりました。小さい個体も採集したいのですが、思い通りにはならないのが現実です。大きなアナゴカゴでは尾胸甲長20mm以下の個体は網目から外に逃げてしまい、小さなアナゴカゴでは尾胸甲長20mm以下の個体でも逃げられませんでした。

(あいかわ自然ネットワーク・大木)

#### 座間市

座間市では鳩川水系支流最上流域にある谷戸山公園内3箇所と、目久尻川最上流部の流域4箇所を調査した。鳩川水系の谷戸山公園では、「持ち込まず、持ち出さず」を原則としているが、来園者持ち込んだと思われる外来種が増え続けている。2000年、2007年、2014年にかいぼりを行ない、オオクチバス、ブルーギルは確認されなくなったが、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、ウシガエルは減少していない。さらにグッピー、ヒメダカが昨年以降確認されている。一方、目久尻川水系ではアメリカザリガニが広く分布するものの、公共下水道の整備にともない水質改善が進み透視度は 1mを超え、絶滅に近かったサワガニや湧水系の魚などが本川や支流に見られるようになってきている。

(座間のホタルを守る会・並木)

#### 海老名市

海老名市内では鳩川の下流域1ヶ所と目久尻川の支流2ヶ所を調査した。いずれも市内の北部に位置する。この内、鳩川(馬船橋付近)は一回だけの調査であるが、アメリカザリガニはゼロで、天敵のクサガメ、モクズガニが多数採集された。一方、一番多かったのは杉本小前の水路で、ここではカメ類やモクズガニは採集されなかった。目久尻川本流では同じく天敵のコサギを多く見かけるが、調査地点は車道のすぐ脇にあるため、ここに飛来することは滅多にない。これらのことから天敵の存在がアメリカザリガニの生息数に大きく影響していることが推測される。目久尻川支流2ヶ所では3年連続の調査を行ったが、年度により使用したカゴが異なるため、生息数の推移は読み取れない。大カゴだけの場合は尾胸甲長18mm以下の個体は抜け出て採集数が少なくなっている。また、学校の夏休みの終わりに近い時期に調査しているため、子供たちが採集した影響が出ている可能性もある。

(目久尻川をきれいにする会・村田)

#### 目久尻川下流(寒川町広域リサイクルセンター付近) 調査地点:1地域(1地点)

目久尻川は湧水を源流としているので下流の寒川域でも比較的清水が流れている。流路は関東大震災後の河川改修により下流域は直線的になって流れが速い。調査地点は中洲があり流れも緩やかで河床には泥の堆積が見られアメリカザリガニが多いと予測して調査場所に選定したが、採集カゴの中には"ナマズ・ミシシッピアカミミガメ・モクズガニ"などが多く採取された。採集調査では採取はできなかったが、後日実施した"川の生き物調査隊"では子供たちが網で数尾のアメリカザリガニを採集している。①川ではナマズなどの天敵が多く繁殖がしにくい。②田んぼで多いのは人工的な環境で天敵が少ない。③採集調査には天敵の入りにくいカゴで網目の小さいものが良いと思われる。 (相模川湘南地域協議会・中門)

#### 相模川左岸用水路のアメリカザリガニについて

相模川左岸用水幹線水路の大きな流れは、通水時には速くて深く調査できません。幹線水路から水田地帯の中に引き込んだ支線水路にはアメリカザリガニがいるので、水が止まる秋には、サギ類などの鳥がアメリカザリガニを食べに来ています。田んぼの生き物調査をした座間市の水田水路には大きな個体がいましたし、ザリガニ捕りをしている親子に出会ったこともあります。 (実行委員会での情報交換から)

#### 愛川町

#### 尾山耕地休耕田内池のアメリカザリガニ駆除を通して

2010 年 3 月に県博物館で「本当は怖いアメリカザリガニ」と題する講演があった。各分野からの経験報告があり、 触発されて駆除活動を行うことにした。駆除方法や計測方法など指導していただき、駆除道具も借りてささやかな 駆除活動を開始した。休耕田内の池は唯一冬でも水をたたえるヨシに囲まれた 4m×7mの楕円形の池で、乾田と 化す時期の生き物の退避場所になっている。2010 年 6 月からはアナゴカゴを 30 基に増やし 2012 年 12 月までの 約 2 年半常設して駆除を行った。時々網によるすくい取りも実施し稚ザリを採集した。3952 尾、28477g のアメリカ ザリガニを駆除した。(1~4 月は活性が鈍くほとんど採集できないので休止)

生物調査	種数	個体数(尾)
2007年10月	8	134
2012年10月	17	487
駆除年度	駆除尾数(尾)	駆除質量(g)
2010年	1762	7820
2011 年	1601	17740
2012 年	589	2917
2013 年	638	4336
2014年10月まで	672	4832

2007 年苅部、藤田らがこの池のアメリカザリガニ調査をして、10月の1週間の間に4回駆除作業を行い852尾2762g駆除した。その際水生生物調査をした記録があるので、2012年10月に水生生物調査をして比較してみた。2年間の駆除後、種数で約2.1倍、個体数で約3.6倍に増えていた。周りの環境が保たれていて、池のアメリカザリガニが低レベルでコントロールできれば生き物が戻ってくることが実感された。しかし常設したため混獲が多く、(トウキョウダルマガエル378、シュレーゲルアオガエル65、ツチガエル141、ヤマアカガエル72、ミズカマキリ89、ヤマカガシ5、シマヘビ1、ドジョウ16、その他の魚類8、コガモ2)月平均

5.2回引き上げて混獲した生き物を逃がさねばならなかった。

2013年以降カエル類が多い4月~8月を禁漁とし9月~12月に駆除を行った。しかし常設して駆除した。2012年以降徐々に駆除量が増えており禁漁期間が長いと(手を抜くと)残念ながら増えていく傾向がみられた。

休耕田内の池は中津川からの用水路を通って、また水田や休耕田からの侵入があり根絶することは無理であり、いかに根気強くアメリカザリガニと対峙するのかにかかっている。より低レベルにコントロール出来れば池の生物多様性が保たれるものと思われる。開放系の場所だと一度アメリカザリガニが侵入してしまうと根絶は不可能に近いので、まだ侵入のない場所は絶対侵入させない取り組みと体制が必要である。

アナゴカゴだと網目が大きく、稚ザリは落ちてしまい駆除が難しいため、稚ザリ用改良カゴを試作し、他地域で有効性を検証した。ぜひ活用してもらいたいので紹介する。作り方は手間がかかるがいたって簡単で、100 円ショップで特大ランドリーネット(洗濯ネット 52cm×直径 42cm 荒目タイプ)を購入し、その中へアナゴカゴを入れる。両側の口の部分に穴おあけ、アナゴカゴに口の部分を縫い付けるだけ。アナゴカゴより短くなってしまうが、下表のように採集数はかえって増える。稚ザリはアナゴカゴから落ちてしまうため、手早くプラフネに乗せて採集したためかろうじて 31.7 尾採集できたのである。改良した稚ザリ用アナゴカゴでは落ちることなく 100.2 尾採集でき中・大型も通常のアナゴカゴより採集数が多い。ただ洗濯ネットは紫外線での劣化があり 1 年間しか持たない難点がある。

採集道具	稚ザリ月	月カゴ 15 個	~20 個	アナゴカゴ 53 個		
アメリカザリガニの大きさ	大	中	小	大	中	小
採集尾数(尾)	782	1118	1686	2261	2021	1858
1 カゴ当たりの採集数(尾)	45.6	65.7	100.2	42.6	38.2	31.7



(あいかわ自然ネットワーク・諏訪部)

#### 厚木市·清川村

厚木市と清川村にある相模川右岸の小河川・18 地点を、6 日間にわたり調査した。玉川水系では、日向川・多々良沢・上谷戸沢の3地点、恩曽川水系では、恩曽川の上流・中流の2地点と支流の市道川、小鮎川水系は、上流・下流の2地点と支流の金井川の3地点、荻野川水系は、中流・下流の2地点と支流の田尻川、善明川水系は、上流・中流・下流の3地点、山際川水系は、上流・中流・下流の3地点であった。調査結果は、アメリカザリガニがどのような場所に生息しているのかをまとめ、以下の傾向が見られた。

採集された11 地点の状況から、アメリカザリガニの好む物理的・科学的環境は、止水域やたまりなど水流のない場所、水質が悪化した川、低水位の川、堰堤下のたまり、支流や用水路と本流の合流地点、新しく作られた親水性の水域などであった。採集されなかった7地点の状況から、アメリカザリガニがあまり好まない物理的・科学的環境は、河川本流の河口域、流れの速い瀬および河川最上流域であった。生物的環境としては、大型甲殻類のモクズガニが生息する水域であった。

#### 平塚市

#### 相模川下流部の状況

#### 厚木市と平塚市の境界とその南に広がる戸田、田村地域の田んぼでの調査結果

2012年、落水前に調査した、9月10日の戸田田んぼ脇小水路と傍の休耕田にはいなかった。9月11日そこから約500m南の吉際幹線用水路で1尾、傍の支線用水路で2尾いた。9月12日そこからさらに2km南の田村幹線用水路で0尾。傍の小水路に41尾いた。吉際幹線用水路について、追加で調査したので報告する。落水前の1尾が、落水後の10月5日に151尾、11月1日には26尾いた。大量にいた所は幹線用水路の堰の下で、そこには側面に排水管があり、11月1日の測定では水路の水温14度に対して排水口から18度の排水が流れこんで、あぶく等も見られた。そこにアメリカザリガニが群れていた。落水後の排水管の下の濁った水たまりは、暖かく養分に富んだ環境を提供していたと思われる。2013年も、落水後の9月25日に調査し235尾と前年同様大量のアメリカザリガニがいた。2014年は、落水前の9月12日で12尾、落水後の9月19日で18尾と大差ない数であった。堰の下に流れ込んでいた排水は、きれいな感じで、3013年までの排水管直下の水の濁った様子も見られなかった。排水がきれいになったことで、アメリカザリガニの大量繁殖に適した環境がなくなったものと思われる。

#### 下流部相模川本流馬入水辺の楽校ワンドでの調査結果。

馬入水辺の楽校では毎年、相模川本流にできたワンドで、水生生物の調査を行っており、その折、アナゴカゴを 仕掛けているが、その時にアメリカザリガニは発見できていない。アメリカザリガニよりはるかに大きなミシシッピアカミミガ メ、ナマズ、コイ、ニホンウナギなどがアナゴカゴで採集されており、それらに捕食され、繁殖が難しいのかもかもしれな い。河畔に作られているカエル池で、2014年 10 月、子供たちが、アメリカザリガニ釣りを楽しんでいた。本流にはい なかったのに50尾以上も釣り上げられていた。体長がほぼ揃っており、もしかすると、誰かが最近投げ入れたものが 大量繁殖したのかもしれない。指導役のお父さんにどうするか聞くと、次に来たときのために池に戻すとのこと。譲って もらって処理をしたが、自然環境を維持することの困難さを改めて感じた。

(桂川·相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会·峯谷)

#### 四之宮せせらぎの森

(調査方法が、今回の流域協議会調査と同一ではない為、データを一覧表欄外に掲載しました)

平成 25 年に計 4 回、池の水を水中ポンプで抜きアメリカザリガニの駆除を実施しました。9 月の実施時まで合計 個体数が増加を続けていましたが、12 月の実施時では 10 分の 1 近くまで減少しました。また、アナゴカゴを用いた駆除も継続して行っています。 今後もこれらの駆除を継続することで全体数の減少が期待できると考えています。





(公益財団法人 神奈川県下水道公社 四之宮管理センター・浅木)

### 調査全体のまとめ

調査全体のまとめとして、アメリカザリガニの実態については、以下の傾向が見られた。

採集された地点からアメリカザリガニの好む物理的・科学的環境は、止水・たまりなど水流がない場所、水質が悪化した川、低水位の川、堰堤下のたまり、支流や用水路と本流の合流地点、新しく作られた親水性の水域などであった。採集されなかった 13 地点から、アメリカザリガニがあまり好まない物理的・科学的環境は、河川本流の流れの速い場所、河川の最上流域及び流れの速い堰堤直下などであった。生物的環境としては、モクズガニ、ナマズ・ニホンウナギ・コイ・カメ類などの大型甲殻類や大型の肉食性魚類などが生息する場所であった。

最新の研究から、アメリカザリガニが全国各地の水辺で大繁殖し、生態系に及ぼすメカニズムが解明された。アメリカザリガニは水草や水生昆虫の他、落ち葉や泥のような有機物も摂食している。魚類や水生昆虫類の産卵場所や餌として、あるいは隠れ場として重要な水草を切断して、生態系のベーシックな部分にダメージを与えることが確認されている。

本調査はアメリカザリガニの分布状況を把握する調査であって、アメリカザリガニが生息する場所を予測しての採集調査であった。今後は、専門家の協力を得て、アメリカザリガニが生息していない水域や少ない水域を選定し、物理的・化学的・生物的環境の三面から、詳細に調査する必要がある。さらに、アメリカザリガニが多い水域において、その生態の詳細や駆除技術の開発研究を行っていくことも重要であろう。また、今回の調査から、大型甲殻類や大型の魚類が、アメリカザリガニの増殖に歯止めをかける可能性が示唆された。そのため、アメリカザリガニの駆除だけを行うのではなく、これらの在来の生物の保全策や復元策を検討し、在来の生態系の再生を併せて考えることが、アメリカザリガニの増殖抑制への近道ではないだろうか。

アメリカザリガニは 1927 年に現在の大船に養殖用のウシガエルのエサとして持ち込まれ、そこから逃亡して全国各地に広まってしまった。自然度の高い水域よりも、汚染された都市河川やコンクリートで改修された水路、公園の人工的な池などで多いことから、自然環境が悪化して、生物の多様性が低下した水域で特に増えるものと考えられている。アメリカザリガニの拡大時期は、ちょうど日本の高度経済成長に伴い、山が切り開かれ都市が造成された時期と一致する。河川はコンクリートで護岸され、水田地帯では圃場整備が推進された。河川生態系の単調化と生息する水生生物の多様性の消失が、アメリカザリガニの増殖に拍車をかけたと言えるであろう。

また、アメリカザリガニは、50 代・60 代の私たちが子供の頃から、都市部の水田や水路、池などで優占し、一番の人気者であった。そのため、アメリカザリガニの駆除と聞くと「どうして?なつかしい思い出の生物なのに」「昔からいたのに、何が悪いの・・・」と反論される方々も少なくない。しかし、それは大きな勘違いである。本来、アメリカザリガニに占拠されてしまった水域には、昔はテナガエビ類やモクズガニなどの甲殻類、タガメやゲンゴロウなどの水生昆虫、メダカ、フナ類、ナマズ、ニホンウナギなどの魚類などが生息し、たくさんの生物で賑わっていたのである。経済性を最優先し、環境面ではお世辞にも先進国とは言えない日本であるが、最近は少しずつ変化が現れ、都市部では自然環境の保全や再生の機運が高まりつつある。アメリカザリガニの生態系への影響は深刻で、相模川流域の自然の再生を真摯に考えるならば、最もまじめに対処しなければならない課題の一つである。

(KWN 住倉·勝呂)

# 勉強会 講演要旨

2013年11月23日に開催した勉強会の講演内容を要約して掲載します。



テーマ: 水辺の生物多様性・生態系の保全再生

事例について

講師: 勝呂尚之氏

(神奈川ウォーター・ネットワーク)

- ・講演内容の概要
- ①河川の復元・・・多自然川づくりと魚道
- ②ビオトープによる復元
  - ・・・ホトケドジョウとミナミメダカ
- ③外来種対策・・・アメリカザリガニ
- ④丹沢再生(資料のみ)ヤマメの食性と森林

#### ①河川の復元について

■河川環境悪化の原因は、水の汚れだけではない。 森がダメになったり、河川改修による護岸なども。堰 堤・ダムなどがあるとアユ、ウナギ、ハゼ、カジカ、エビ やカニの仲間など多くの魚類が、海と川を行き来で きなくて、上流側から絶滅する。

#### ■生態系に影響を与える外来種

その地域に外(国外・国内他地域)から入った生物。ウシガエルやアメリカザリガニはずっと前から各地に入っていたが、最近はミッシシッピーアカミミガメも増えた。

■絶滅種だけ保護すればよいのではない。絶滅種を含めた生物多様性をあげて、安定した生態系をつくっていくことが大事。

#### ■多自然の川づくり事例

・平成9年の河川法の改正もあり、全てコンクリート で固めることが見直されている。 ・鳩川や引地川などで、乱杭やじゃかごの設置、淵 や河原を造成。少しずつ生物が回復。

# ■農業用水路の多自然改修・自然と維持管理 の折り合い事例

・伊勢原市ホトケドジョウの水路を乱杭・土・石積み、 自然護岸の7割ぐらいを保全でき、水路のメンテにも 配慮した折衷案で造成。

#### ■河川の保全・復元の考え方

- ・護岸工事の必要性はあるのか?
- ・生物保護や利用の目的を明確にする。生物の目線で。魚類に対応(事前調査)
- ・地元の素材を使用。
- ・少しの工夫で成果がある、プチ再生。
- ・復元後の問題点を認識し、改修やメンテナンスをするためにモニタリング(継続調査)が重要。

#### ■人工構造物・堰堤の現状と課題

- ・生物の移動障害がある。雨で流され、遡上できないと上流の魚が減少。また、落下による衝撃、砂堆積で堰上の環境が単調化(浅い単調な流れ・伏流で魚が棲めない)
- ・寒川堰のうち階段式魚道に設置したロープはエビ・カニ用で、夜になるとロープを遡上するエビやカニを観察できるので、夜の観察ツアーもおもしろい。

#### ■魚道の問題点

岸沿いに上る魚の誘導が大事、川の真ん中に魚道つくるのは良くない。移動の回復は遡上・降下の両方向。魚道は海に近い下流を優先し、海から遡上できるようにする。

・環境の違う本流と支流の行き来を重視する。魚は、季節や生活史(産卵など)で本流と支流を使い分ける(ナマズは卵を産むために農業用水路に入って来る。夏、ヤマメは本流に少なく、支流に多くなる)

#### ②ビオトープによる小さな自然の復元事例

- ・最初は行政が創出するが、維持管理は市民参加
- ■ホトケドジョウ生息環境復元事例

谷戸の代表種・ホトケドジョウは、湧水域の減少で 絶滅危惧種になった。

- ・川崎市生田緑地では復元池を造成・放流後の維持管理や調査研究が重要。ホトケドジョウの生息環境を再生。ホトケドジョウは、水温の高い湧水環境で越冬する。
- ■ホトケドジョウ生息環境を保全することは、湧水環境のたくさんの生物・谷戸の生態系を保全することになる。

#### ■源流・支流の重要性

水源環境の保全は、支流から本流、海の環境保全につながる。渓流域・谷戸・農業用水などは、魚の産卵場や稚魚の成育場として重要。支流域の再生は市民参加に期待する。

#### ■絶滅危惧種メダカの生息環境復元事例

最近メダカは、ミナミメダカ(南日本集団・小田原など)とキタノメダカ(北日本集団・東北の日本海側) に分類された。

・小田原のミナミメダカのビオトープ再生。アメリカザリガニが増えてしまったが、地域ぐるみの継続した駆除で減っている。

# ③アメリカザリガニ対策

あきらめずに駆除を継続するだけでなく、川を遡上できず少なくなったライバル(大型モクズガニ・ナマズなど)を増やし、安定した生態系を復元することが必要。

■ギバチを増やす対策として、間伐材を用いた魚礁を作った。箱状の網、底面にも網を張って中に間伐材を入れる。魚のほかに、カワニナ・ヌカエビ・アメリカザリガニも入る。調査や駆除、観察会にも使える。(写真:間伐材を用いた魚礁)

#### まとめ

- ■水辺環境の保全・復元のポイント
- ○外来種の正しい情報発信
- ○定期的に外来種駆除をしないと自然は戻らない
- ○対策を行政の計画に盛り込む
- 〇市民の連携
- 〇プチ再生 少し手を入れると生物が増加。
- 〇市民団体のメンバーは、専門知識を学び、故浜 口哲一氏提唱のトコロジスト(地域の自然の防人) になる。

#### 会場参加者からの感想・意見

- ・県立座間谷戸山公園でも厚木市七沢の県自然環境保全センターを見習って、谷戸山公園でも子供たちが釣ったアメリカザリガニの持ち帰りを禁止にしてほしい。
- ・バケツを置いて、釣ったアメリカザリガニを入れてもらうようにするなど、最後の始末まで子供たちにきちんと言って、見せると良いのではないか。
- モニタリングの重要さが良くわかった。
- ・調査には、市民も行政に協力する。

(拍手)



#### おわりに

本調査を通して、アメリカザリガニの生息密度や在来生物との関係を知ることができました。各地域で活動しているグループの皆さんが主体となって行う調査スタイルははじめてでしたが、地域ごとの環境保全への想いや取りくみ内容について意見交換や情報交流ができました。

また、この調査への参加をきっかけに、相模川湘南地域協議会は平塚市四之宮の下水道公社のビオトープの池で大量発生したアメリカザリガニの駆除に協力し、あらたな協力関係ができたことも大きな成果であったと思います。アメリカザリガニを含めた、外来生物の課題解決には、まだまだ先が長く、前途多難ですが、少しずつでも市民の皆さんの間で関心が広まり、桂川・相模川の各地域において、本来の自然環境を取り戻せる日が来ることを強く願っています。

今回の調査は会員以外の方々も参加する拡大実行委員会として実施しました。流域で活動する座間のホタルを守る会の並木保男さん、NPO法人神奈川ウォーターネットワークの住倉英孝さんなどのご参加もいただき、田んぼの生きもの調査に引き続いて、魚類研究者の勝呂尚之さんには勉強会講師・アドバイザーとして、貴重なご助言・教示や写真のご提供をいただきました。

#### 謝辞

今回の調査実施に当たり、実施年ごとに相模川漁業協同組合連合会からご同意をいただきました。多くの皆様のお力添えにより、アメリカザリガニ調査及び、報告書作成ができましたことを感謝いたします。

2012~2014年度アメリカザリガニ調査及び拡大実行委員会参加者(敬称略) 勝呂尚之(アドバイザー)・斉藤昭一・飯田英榮・竹内長次・井上芳子・飯田英喜・三宅紘輔・萩原 博・村田 弘・倉橋満知子・竹永 豊・中門吉松・渡辺 充・武井平弌・峯谷一好・金子裕明・住倉英孝・並木保男・八木伸一・・諏訪部 晶・小泉計男・大木悦子(担当幹事)

■連絡先:桂川·相模川流域協議会事務局 山梨県富士·東部林務環境事務所環境課内 TEL0554-45-7811 神奈川県環境農政局水·緑部水源環境保全課内 TEL045-210-4358

- ■発行者:桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査拡大実行委員会編集協力・デザイン:NPO法人 湘南NPOサポートセンター
- ■発行日:2014年12月



# 【裏表紙写真解説】

- 13 マユタテアカネ
- 14 中津川
- 15 トウキョウダルマガエル
- 16 サワガニ
- 17 ナマズ
- 18 ニホンウナギ
- 19 ドジョウ
- 20 ヌカエビ
- 21 アユ
- 22 モクズガニ
- 23 ミナミテナガエビ
- 24 アブラハヤ
- 25 ゲンジボタルの幼虫
- 26 ホトケドジョウ
- 27 スジエビ
- 28 目久尻川

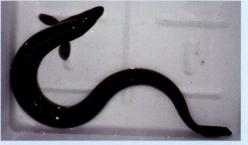














アメリカザリガニ調査報告書 2012~2014 桂川・相模川流域協議会 アメリカザリガニ調査拡大実行委員会



















